



2024年5月29日

各位

会社名 株式会社 帝国電機製作所
代表者名 代表取締役社長執行役員 頃安 義弘
(コード番号6333 東証プライム市場)
問合せ先 取締役専務執行役員総務本部長 村田 潔
(TEL: 0791-75-4160)

新中期経営計画（2025年3月期から2027年3月期）策定について

当社は、このたび2025年3月期を初年度とする中期経営計画を策定いたしましたのでお知らせいたします。

新中期経営計画（2025年3月期から2027年3月期）においては、収益性及び資本効率の改善を図ることにより、2027年3月期におけるROE 14.0%を目標といたしました。なお、詳細につきましては、本日公表の2024年3月期決算説明資料をご覧ください。

1. 新中期経営計画のKPI

	2024/3 (下段は電子部品事業を除いた数値)	2027/3 目標	(百万円)
財務数値			
受注高	29,895 (28,267)	33,400	CAGR 3.8% (5.7%)
売上高	29,217 (27,596)	32,000	CAGR 3.1% (5.1%)
営業利益	4,882 (4,943)	5,700	CAGR 5.3% (4.9%)
営業利益率	16.7% (17.9%)	17.9%	+1.2bpt (0bpt)
企業価値指標			
ROE	9.9%	14.0%	+4.1bpt

2. 収益性を高める主な取組み内容

経営資源の適正配分へ、事業の選択と集中の観点から、「電子部品事業」を停止
(2024年12月末予定)

また、以下の施策を資産効率性を同時に意識しながら実施してまいります。

- ① 中長期的な成長が見込める脱炭素市場等の新市場開拓強化
- ② 国内子会社の生産効率化
- ③ 中国子会社の生産効率化
- ④ インド子会社の現地生産機種拡大による販売強化
- ⑤ 米国規格 ASME B73.3 準拠製品の米国子会社での現地ノックダウン生産による販売強化
- ⑥ 米国子会社のサービス工場拡張によるサービス需要の更なる取込み

3. 資本効率を高める資本政策（2025年3月期から2027年3月期）

自己資金である現預金と営業キャッシュフローを資金原資として、2025年3月期から2027年3月期の3ヵ年累計で約55億円規模の設備投資を行う予定です。

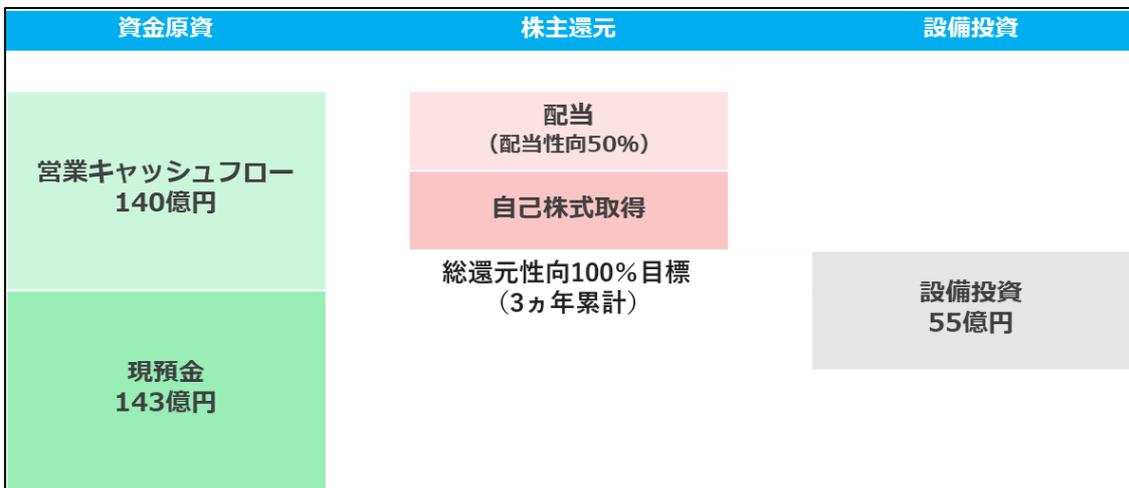
株主還元についても、配当性向50%を目安とした配当を行い、併せて、3ヵ年累計の総還元性向100%を目標に自己株式取得を実施する予定です。

<ご参考>新中期経営計画における設備投資計画

地域	金額（3年間累計） 単位：億円	内容
日本	30	・国内子会社の生産効率化（15億円）と労働環境改善など
アジア	20	・中国子会社の生産効率化（13億円） ・インド子会社の生産能力増強
欧米	5	・米国子会社のサービス拠点拡張 ・米国子会社のノックダウン生産機種拡大
合計	55	

※金額については、計画が具体化する中で変更になる可能性があります。

<ご参考>資本政策概念図



以上

2024年3月期
決算説明資料
(中期経営計画含む)

2024年5月29日

東証プライム： 6333



株式会社 **帝国電機製作所**

Technologies for Blue Earth

1. 2024年3月期決算
2. 2025年3月期業績見通し
3. 中期経営計画（2025年3月期～2027年3月期）
4. ご参考資料



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

1. 2024年3月期決算



株式会社 帝国電機製作所

2024年3月期決算概要



- 過去最高売上を達成したが、人件費等の販管費増加や電子部品事業の赤字計上で営業減益。
- 当期純利益減少は、電子部品事業撤退による特損計上によるもの。

(百万円)	2023年3月期	構成比 (%)	2024年3月期	構成比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	28,450	100.0	29,217	100.0	+767	+2.7%
売上原価	16,377	57.6	16,968	58.1	+591	+3.6%
売上総利益	12,073	42.4	12,249	41.9	+176	+1.5%
販売費及び一般管理費	7,049	24.8	7,366	25.2	+317	+4.5%
営業利益	5,023	17.7	4,882	16.7	▲141	▲2.8%
経常利益	5,472	19.2	5,442	18.6	▲29	▲0.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	3,996	14.0	3,125	10.7	▲871	▲21.8

- 増収減益だが、主力のポンプ事業は増収増益。減益は撤退する電子部品事業の影響。
- 電子部品事業は、事業効率性向上の観点から撤退。特損570百万円計上。（2024年12月末に事業停止）

売上高

- ・ポンプ事業：高水準の受注残高に加え、円安によるプラス影響等により増収。
- ・電子部品事業：中国経済減速による産業機器需要減少等の影響を受け減収。

営業利益

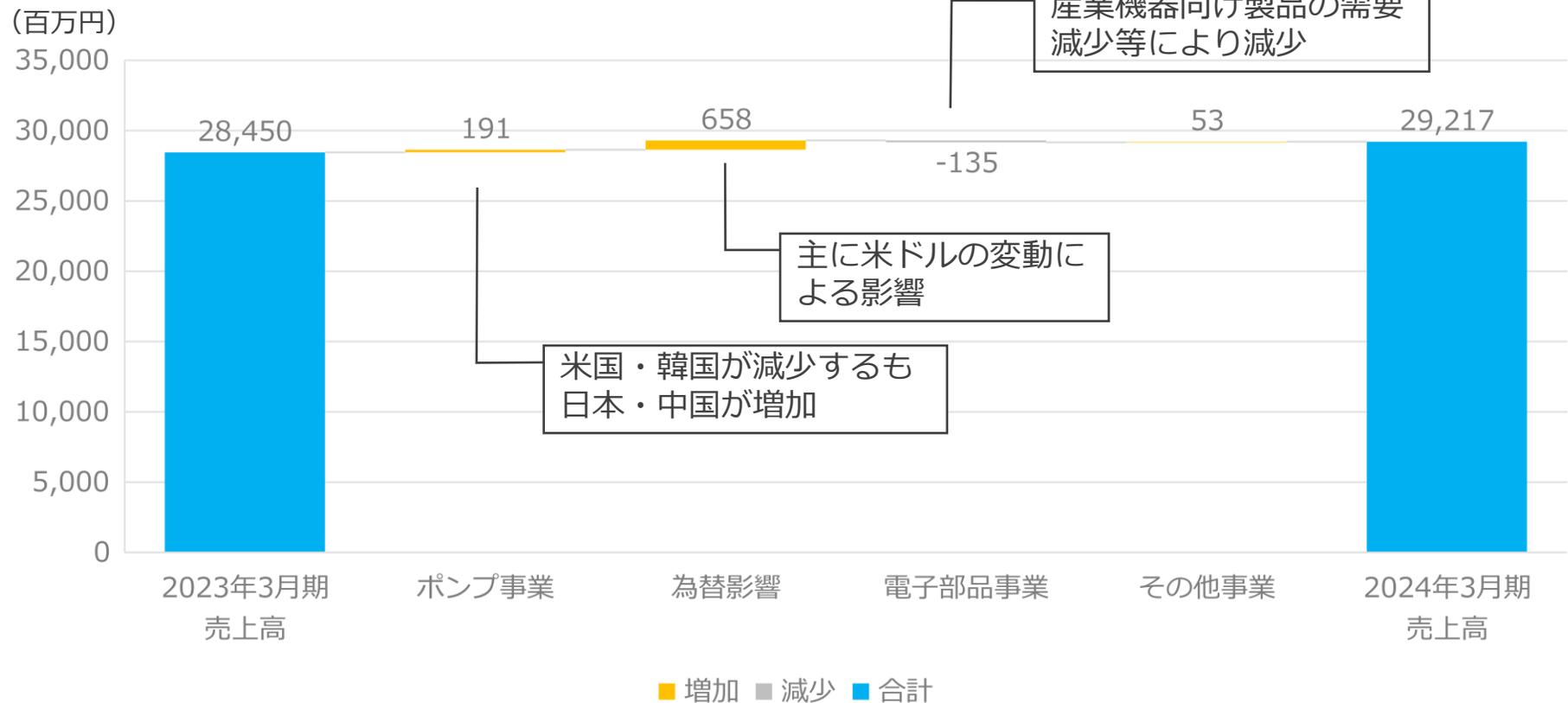
- ・ポンプ事業：増収により増益。利益率は、販管費等の増加により低下。
- ・電子部品事業：減収と一過性の費用の計上等により減益。

親会社株主に帰属する 当期純利益

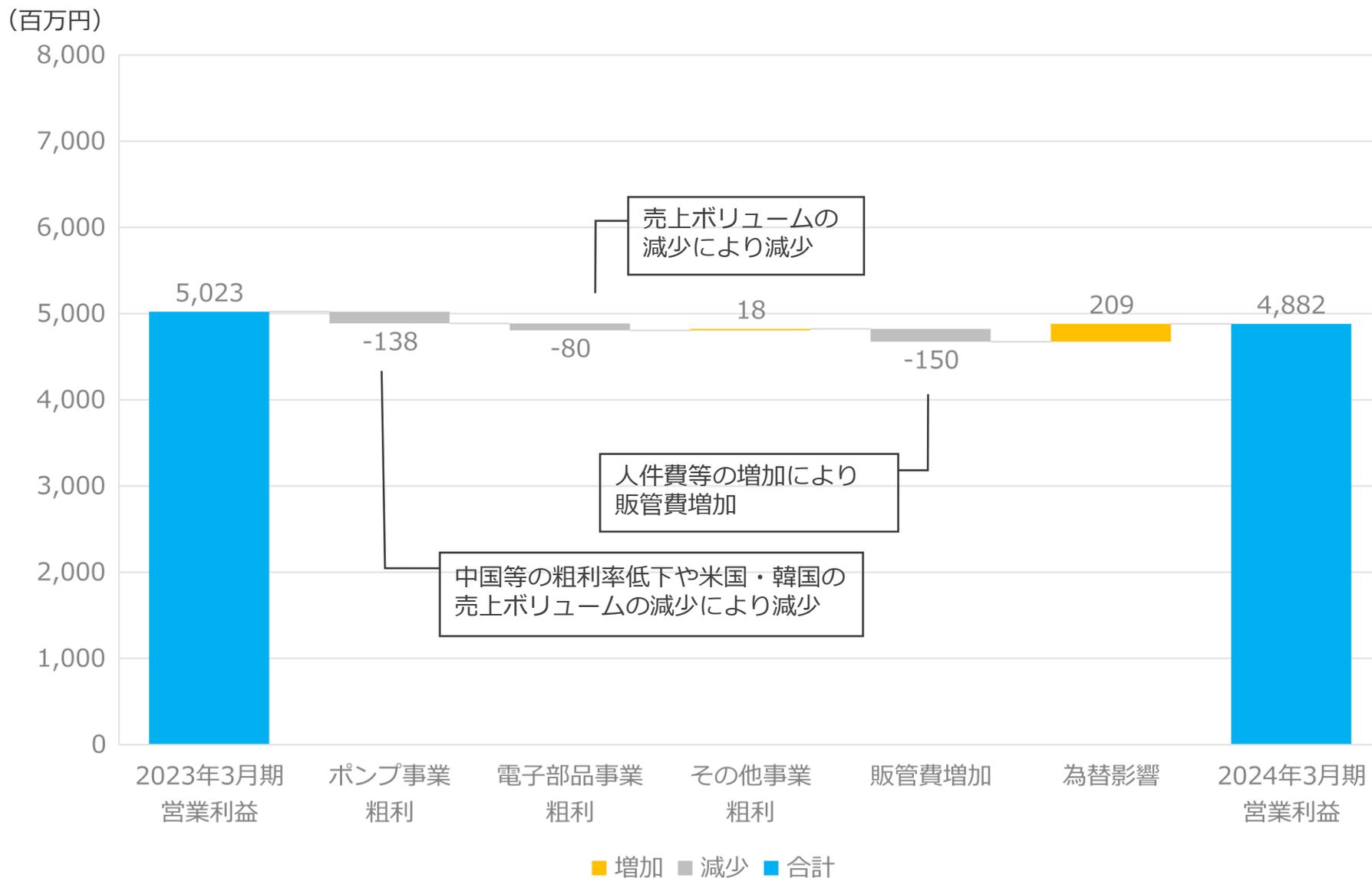
- ・電子部品事業撤退による特別損失570百万円計上の影響により減益。

売上高増減分析：堅調なポンプ事業と円安で増収

期中平均レート推移	2023年3月期	2024年3月期
U Sドル	131.6円	140.7円
人民元	19.5円	19.8円
ユーロ	138.2円	152.1円



営業利益増減分析：粗利減少と販管費増加等により減益



- ポンプ事業は過去最高売上・利益を達成。電子部品事業は減収赤字計上。

(百万円)		2023年3月期	2024年3月期	増減	増減率
ポンプ事業	売上高	26,451	27,300	+849	+3.2%
	営業利益 (営業利益率)	4,884 (18.5%)	4,907 (18.0%)	+22	+0.5% (▲0.5%)
電子部品事業	売上高	1,757	1,621	▲135	▲7.7%
	営業利益 (営業利益率)	115 (6.6%)	▲61 (-%)	▲177	▲153.1% (-%)
その他	売上高	242	296	+53	+22.1%
	営業利益 (営業利益率)	22 (9.3%)	36 (12.3%)	+13	+61.4% (+3.0%)
合計	売上高	28,450	29,217	+767	+2.7%
	営業利益 (営業利益率)	5,023 (17.7%)	4,882 (16.7%)	▲141	▲2.8% (▲1.0%)

- 日本・アジアは堅調であったものの欧米の回復に遅れ。
- 日本・高水準の受注残を背景に増収。ケミカル向けやメンテナンスサービスが堅調。
- 欧米・米国は主にケミカル向けの回復が遅れ減収。
- アジア・中国はケミカル向けやメンテナンスサービスが堅調で増収。

(百万円)		2023年3月期	2024年3月期	増減	増減率
日本	売上高	7,372	8,505	+1,133	+15.4%
欧米	売上高	6,914	6,350	▲563	▲8.1%
アジア	売上高	12,164	12,443	+279	+2.3%
合計		26,451	27,300	+849	+3.2%

※販売元が基準（外部顧客に対する売上でセグメント間は除く）

●メンテナンスサービスが順調に増加（前期比+14.9%）

(百万円)	2023年3月期	比率 (%)	2024年3月期	比率 (%)	増減	増減率 (%)
ケミカル機器用	15,547	58.8	15,357	56.3	▲190	▲1.2
冷凍機・空調機器用	2,193	8.3	2,154	7.9	▲38	▲1.8
電力用（車両用）	903	3.4	935	3.4	+31	+3.5
電力用（地上用）	686	2.6	721	2.6	+35	+5.1
定量注入機器	468	1.7	396	1.5	▲72	▲15.4
その他ポンプ	392	1.5	545	2.0	+153	+39.1
メンテナンス	6,259	23.7	7,189	26.3	+929	+14.9
合計	26,451	100.0	27,300	100.0	+849	+3.2

● ポンプ受注の動向：日本国内は堅調に推移、受注残高は増加。

- ・国内・堅調に推移。
- ・中国・景気減速の影響等により受注高は減少。
- ・米国・資金調達環境悪化によるプロジェクト延期等の影響で受注高は減少だが回復傾向。

(百万円)	2023年3月期		2024年3月期		増減	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
ポンプ事業	28,304	12,620	28,008	13,329	▲296	+708
電子部品事業	1,723	144	1,628	151	▲94	+7
その他	233	106	258	69	+25	▲37
合計	30,261	12,871	29,895	13,549	▲365	+678

貸借対照表

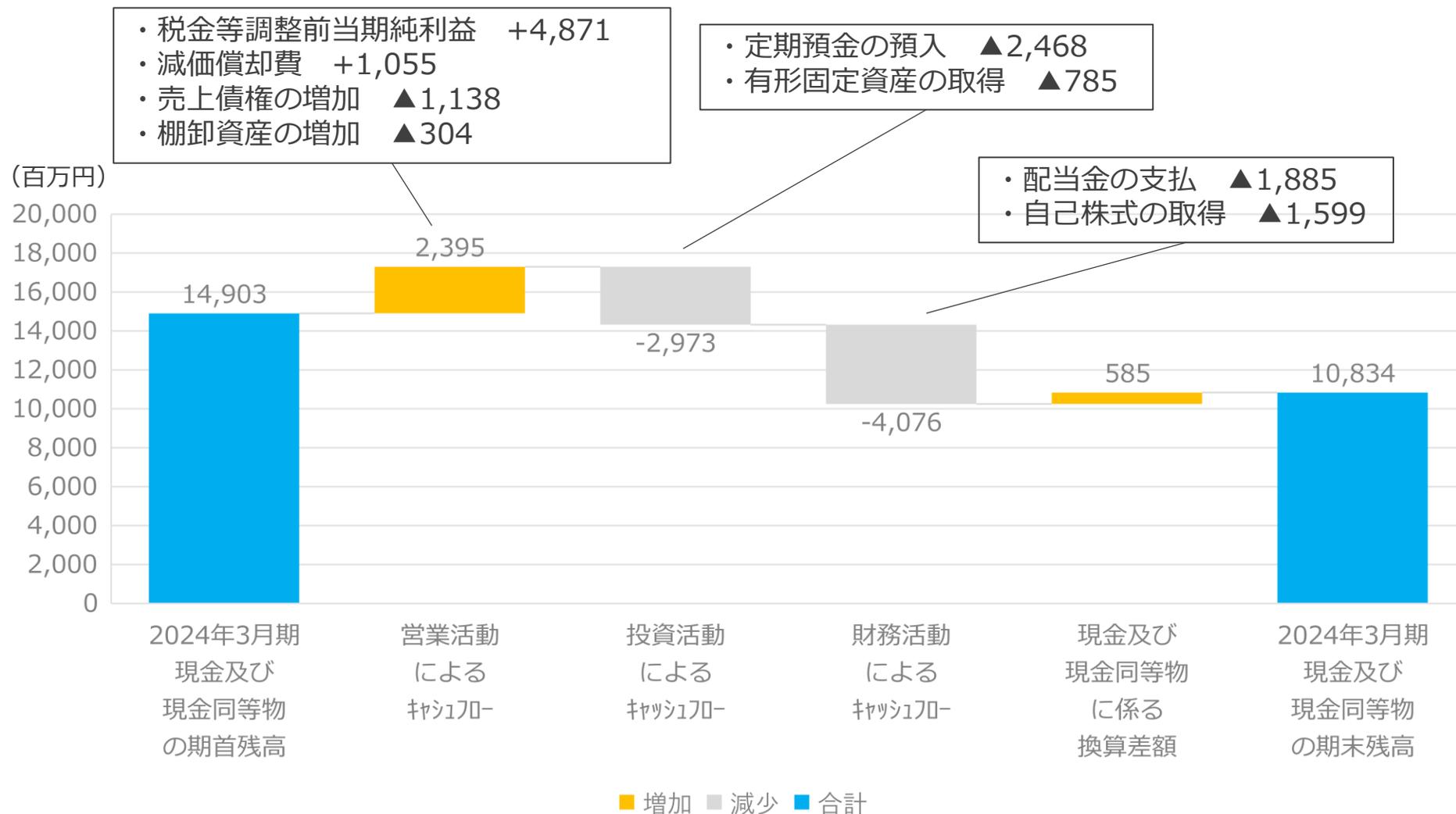


(百万円)

資産の部	2024年3月期	前期末増減
流動資産	31,279	+338
現預金	14,305	▲1,835
受取手形、売掛金 及び契約資産	8,468	+778
電子記録債権	1,888	+656
製品・仕掛品 原材料・貯蔵品	6,538	+513
その他	830	+249
貸倒引当金	▲752	▲24
固定資産	10,761	+105
有形固定資産	8,658	▲341
無形固定資産	134	+6
投資その他の資産	1,968	+440
資産合計	42,040	+443

負債の部	2024年3月期	前期末増減
流動負債	7,662	▲559
支払手形・ 買掛金	1,860	▲145
電子記録債務	647	+2
1年内返済予定の 長期借入金	88	+88
未払法人税等	680	▲184
その他	4,385	+1
固定負債	1,911	+42
純資産	32,466	+959
(内自己株式) (※)	(▲1,914)	(▲438)
負債・純資産合計	42,040	+443

※ 2023年6月1日付で、従業員持株会向け譲渡制限付株式インセンティブとして自己株式21,000株を処分。
 2023年7月27日付で、譲渡制限付株式報酬として自己株式7,100株を処分。
 2023年11月10日取締役会決議に基づき自己株式1,600百万円を取得。
 2024年2月9日取締役会決議に基づき自己株式510,000株を消却
 この結果、当連結会計期間末において自己株式は1,914百万円。





世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

2. 2025年3月期業績見通し



株式会社 帝国電機製作所

- 増収減益：ポンプ事業は増収増益。電子部品事業撤退による特別損失654百万円を想定。

(百万円)	2023年3月期 (実績)	構成比 (%)	2024年3月期 (実績)	構成比 (%)	前期比 (%)	2025年3月期 (計画)	構成比 (%)	前期比 (%)
売上高	28,450	100.0	29,217	100.0	+2.7	29,580	100.0	+1.2
売上原価	16,377	57.6	16,968	58.1	+3.6	17,170	58.0	+1.2
売上総利益	12,073	42.4	12,249	41.9	+1.5	12,410	42.0	+1.3
販売費及び 一般管理費	7,049	24.8	7,366	25.2	+4.5	7,660	25.9	+4.0
営業利益	5,023	17.7	4,882	16.7	▲2.8	4,750	16.1	▲2.7
経常利益	5,472	19.2	5,442	18.6	▲0.5	4,960	16.8	▲8.9
親会社株主に 帰属する 当期純利益	3,996	14.0	3,125	10.7	▲21.8	2,870	9.7	▲8.2

2025年3月期業績見通しの前提条件



- ポンプ事業の高水準の受注残高により電子部品事業停止でも増収。
- 販管費増加や電子部品事業撤退費用計上で減益を想定。

セグメント別		
ポンプ事業	全体	(売上) 増収見込み。 上期：高水準の受注残高を抱え堅調に推移する見込み。 下期：中国経済の減速により中国が弱含みであるが、米国が堅調に推移する見込み。 (営業利益) 販管費増加等により横ばいの見込み。
	日本	・ 減収減益：海外現法との内部取引増加により減収見込み。販管費等増加で減益へ。
	欧米	・ 増収増益：主に米国で受注は回復傾向。増収増益へ。
	アジア	・ 中国が経済減速の影響を受け減収減益見込み。アジア全体では売上横ばい、減益見込み。
電子部品事業		・ 2024年12月末に事業停止予定。同業他社への順次生産移管により売上減少、営業赤字見込み。

計画為替レート(期中平均)	1US \$ =145.0円、1€=160.0円、1元=20.5円、1KRW=0.11円、1INR=1.7円 (前期実績レート：・ 1US \$ =140.7円、1€=152.1円、1元=19.8円、1KRW=0.1円、1INR=1.8円)
---------------	--

※ インドを除く海外現地法人の決算期は12月（インドは3月）

種類別セグメント見通し（売上高・営業利益）



- ポンプ事業は増収で堅調。電子部品事業は12月末事業停止で、引き続き減収赤字計上へ。

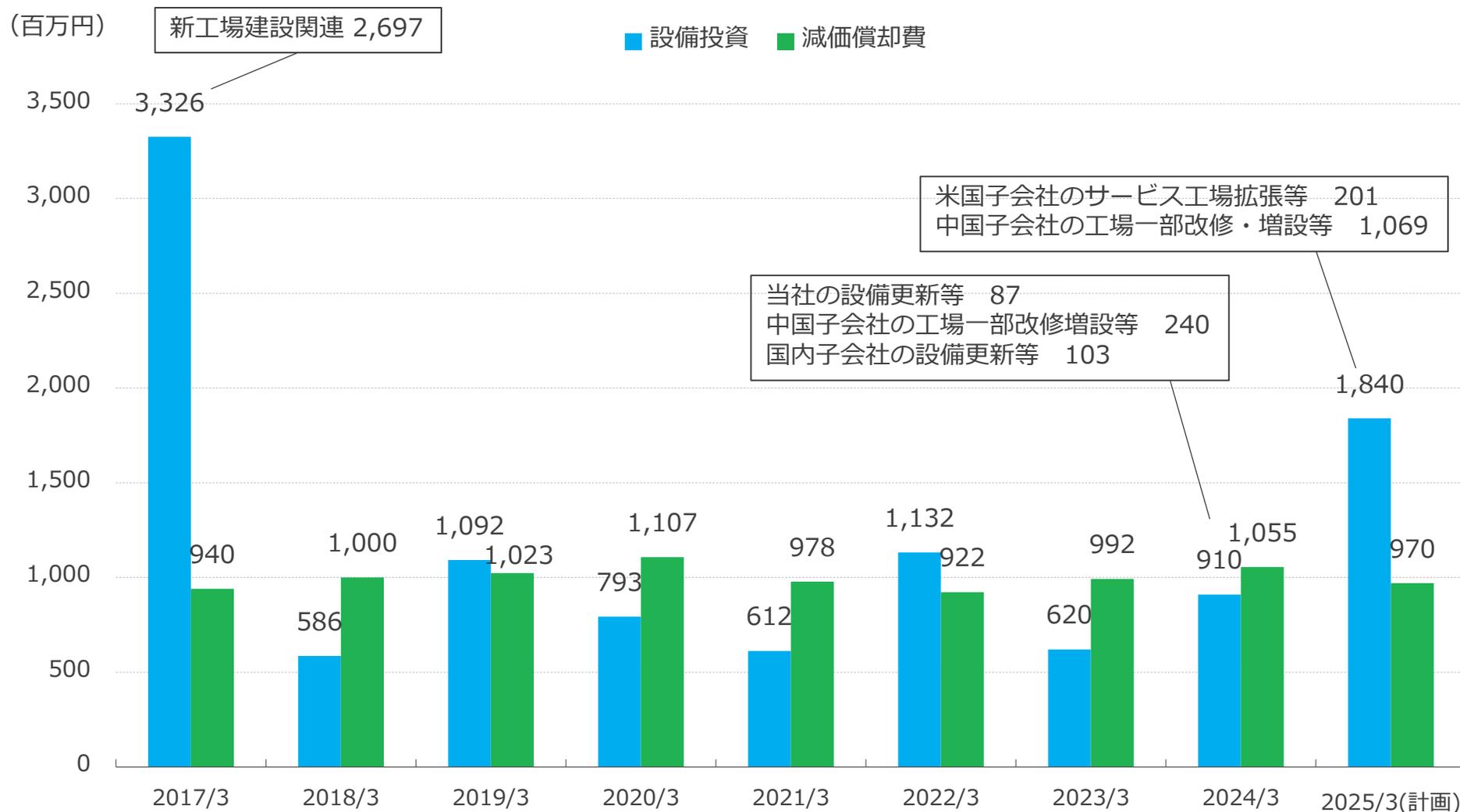
(百万円)		2024年3月期 (実績)	2025年3月期 (予想)	増減	増減率
ポンプ事業	売上高	27,300	28,300	+1,000	+3.7%
	営業利益 (営業利益率)	4,907 (18.0%)	4,910 (17.3%)	+3	+0.1% (▲0.7%)
電子部品事業 * 12月事業停止	売上高	1,621	1,040*	▲581	▲35.8%
	営業利益 (営業利益率)	▲61 (-%)	▲180* (-%)	▲119	-% (-)
その他	売上高	296	240	▲56	▲18.9%
	営業利益 (営業利益率)	36 (12.3%)	20 (8.3%)	▲16	▲44.4% (▲4.0%)
合計	売上高	29,217	29,580	+363	+1.2%
	営業利益 (営業利益率)	4,882 (16.7%)	4,750 (16.1%)	▲132	▲2.7% (▲0.6%)

- 欧米で前期比+18%の増収で復調。米国で受注復調傾向。

(百万円)	2023年3月期 (実績)	2024年3月期 (実績)	前期比 (%)	2025年3月期 (予想)	前期比 (%)
日本	7,372	8,505	+15.4	8,400	▲1.2
欧米	6,914	6,350	▲8.1	7,490	+18.0
アジア	12,164	12,443	+2.3	12,410	▲0.3
合計	26,451	27,300	+3.2	28,300	+3.7

※販売元が基準（外部顧客に対する売上でセグメント間は除く）

設備投資・減価償却費計画：今期は中国・米国の投資を強化



基本方針

新中期経営計画期間（2025年3月期～2027年3月期）は、稼ぐ力を維持・強化しながら、設備投資計画や資本効率改善等を勘案し、総株主還元性向100%、配当性向50%を堅持。

総還元性向 新中期経営計画期間**3カ年累計100%**（うち配当性向**50%**目安）

実施期間 3期間（2025年3月期～2027年3月期）

※上記期間終了後に見直し予定

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期 (計画)
年間配当金	50円	116円	92円	82円
配当性向(連結)	48.4%	54.0%	52.9%	50.3%
総還元性向（連結）	91.4%	100.0%	103.8%	3カ年累計 100.0%



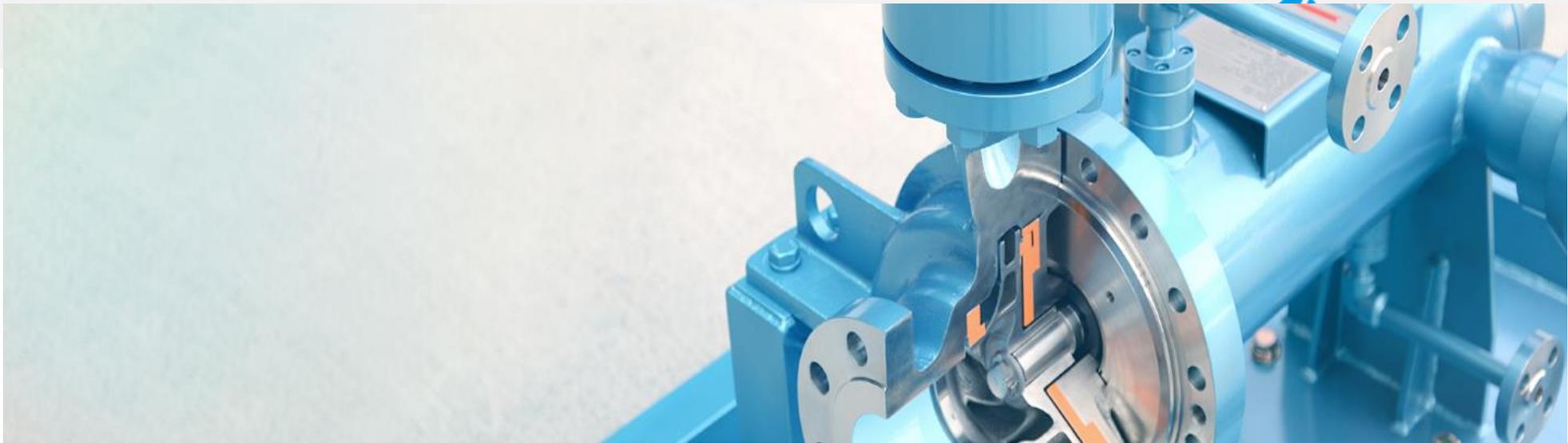
世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

3. 中期経営計画 (2025年3月期～2027年3月期)



株式会社 帝国電機製作所



前中期経営計画の振り返り



Canned
Motor Pump
Manufacturer

私たちは世界シェアNo.1を誇る

キャンドモータポンプの

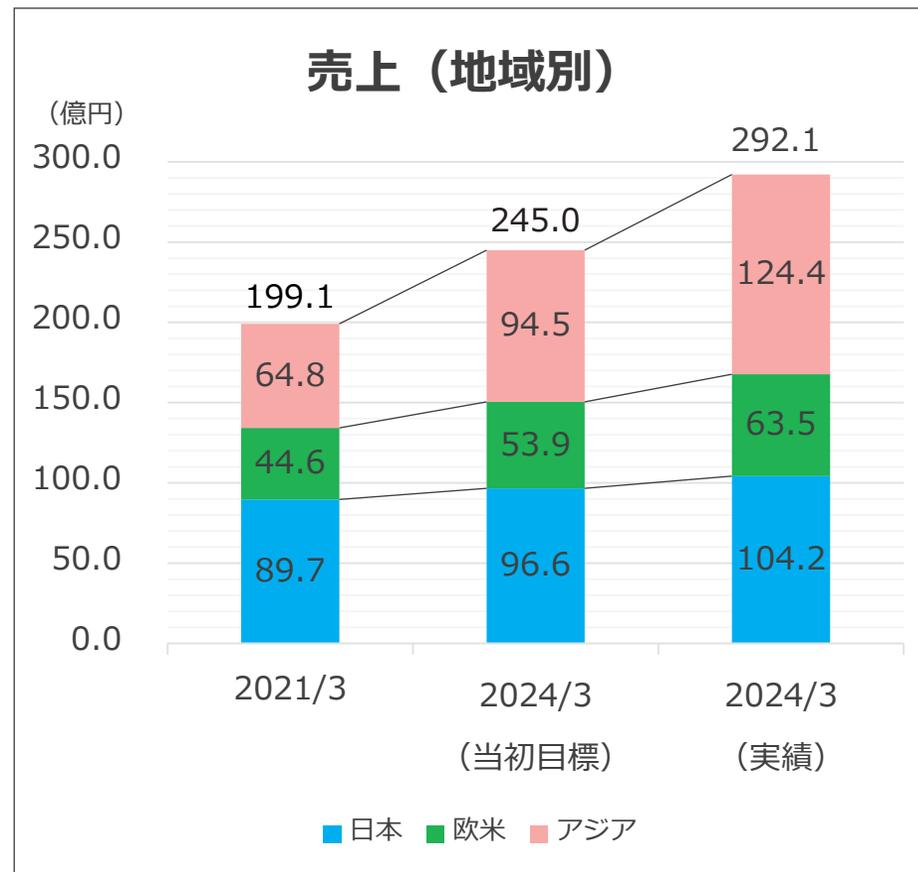
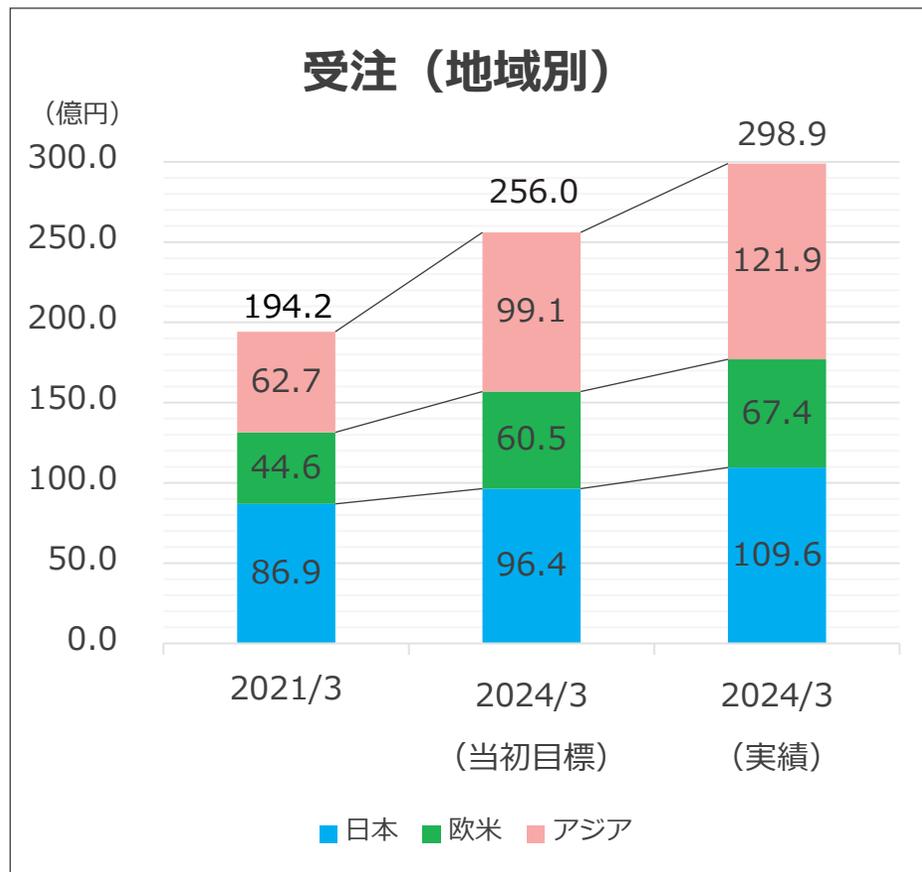
リーディングカンパニーです

- 収益力は大きく向上：**前中計最終年度に比べて売上高5割弱増、営業利益倍増以上。**
- 当初想定を大幅に上回る数値を達成、最終年度のROEは電子部品事業の停止による特別損失あるも**9.9%に改善。**

(百万円)

	2021年3月期 実績 (前中計最終年度)	前中期経営計画（2022年3月期～2024年3月期）			前中計最終年度比較
		2024年3月期 当初目標	2024年3月期 実績	目標-実績差異	2024年3月期実績 2021年3月期実績
受 注 高	19,418	25,600	29,895	+ 4,295	+ 54.0%
売 上 高	19,910	24,500	29,217	+ 4,717	+ 46.7%
営 業 利 益	2,262	3,200	4,882	+ 1,682	+ 115.8%
営 業 利 益 率	11.4%	13.1%	16.7%	+ 3.6bpt	+ 5.3bpt
R O E	8.4%	8.0%	9.9%	+ 1.9bpt	+ 1.5bpt

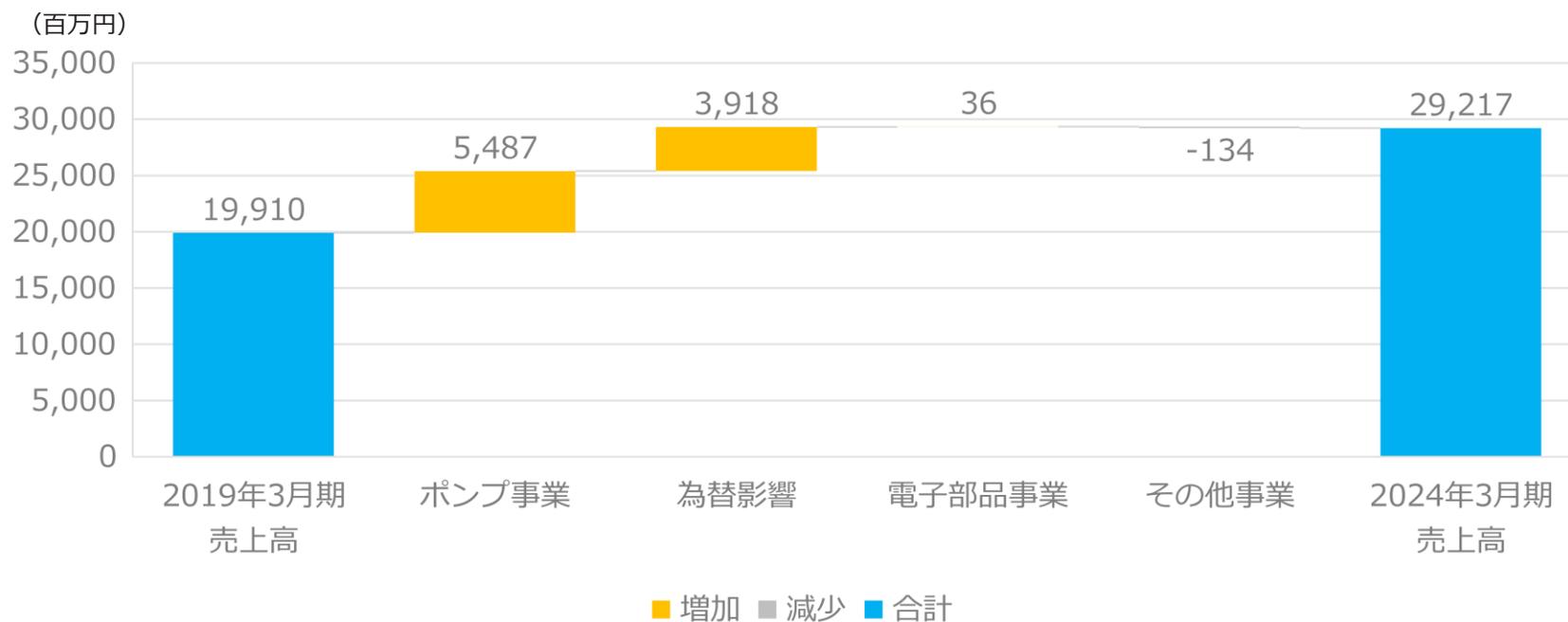
- 全地域で当初目標を上回る受注高を達成。



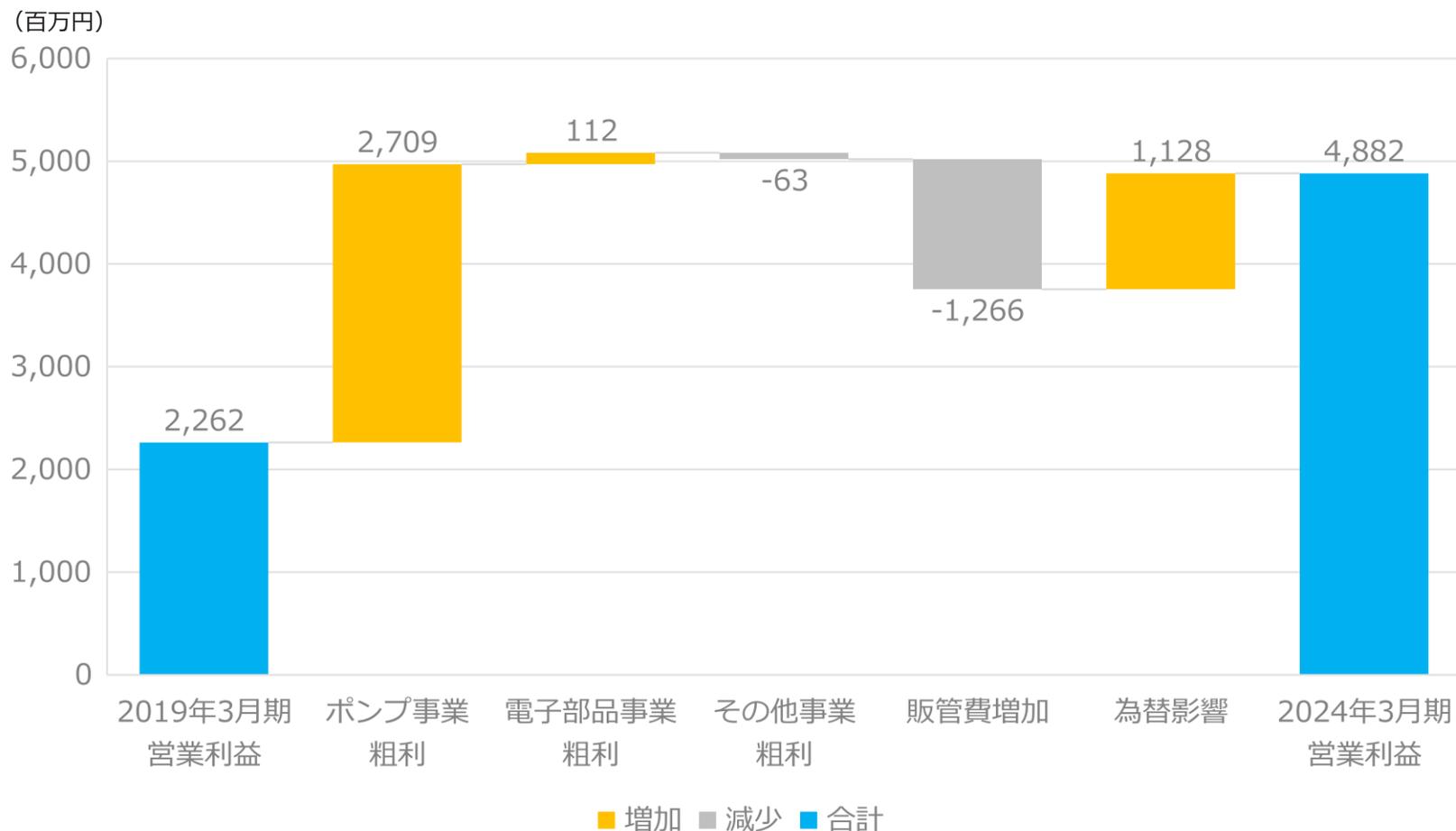
前中期経営計画期間中の売上高増減分析

期中平均レート推移	2019年3月期	2024年3月期
USドル	106.8円	140.7円
人民元	15.5円	19.8円
ユーロ	121.9円	152.1円

- ポンプ事業の成長と為替効果（円安）により増収。



● ポンプ事業での粗利増加と為替効果（円安）により営業増益



- 前中計での高成長・成果を今中期経営計画で持続・増加させることが課題。

ポンプ製品での計画を上回る成長

- コロナ禍下でも中国・アメリカなど海外での堅調な設備投資による生産能力増強
- 国内での堅実なポンプ需要
- 環境意識の高まりや脱炭素移行に向けた設備投資で当社キャンドモータポンプの需要が増加
- コスト上昇分の価格転嫁
- 高付加価値品へのシフト
- 為替要因

成長持続への課題

- 新市場獲得に向けた技術対応力の強化
- 需要増加に見合った調達力の整備
- 需要増加に対応できる生産体制の確保
- 供給後のサービスへの対応

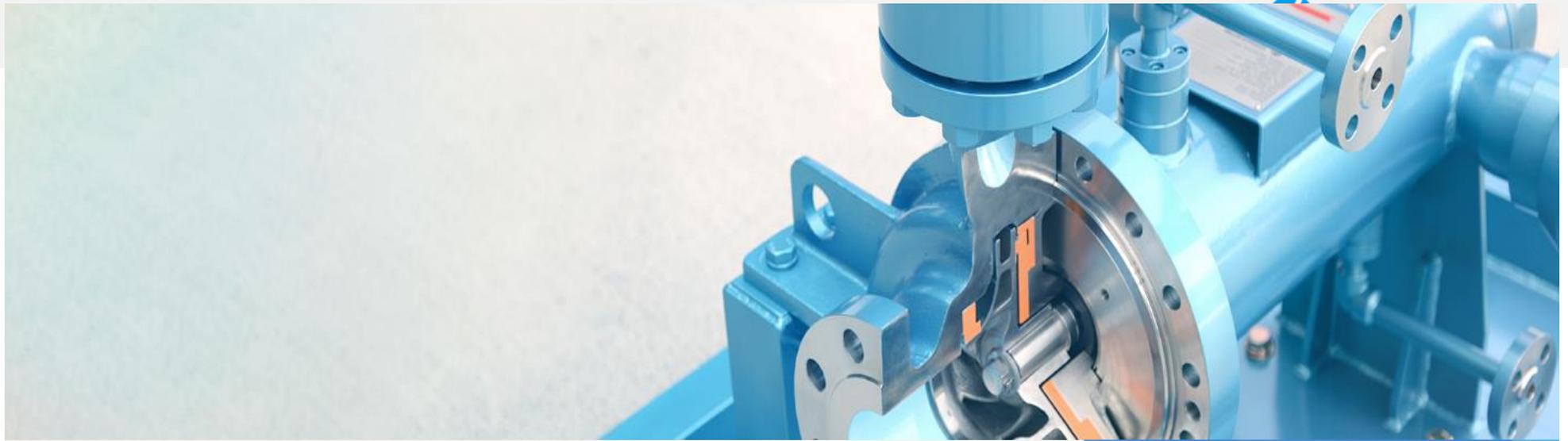
あるべき姿への
ギャップの解消

新中期経営計画 (2025年3月期~2027年3月期)

環境貢献を軸とする
持続的な成長戦略

サステナブルな
生産・調達体制の整備

- 技術対応力の向上 (高難度化)
- 調達力の強化 (鋳物資材等)



今中期経営計画の概要



Canned
Motor Pump
Manufacturer

私たちは世界シェアNo.1を誇る

キャンドモータポンプの

リーディングカンパニーです

「強みと機会」

当社ポンプ製品に競争力と市場期待性がある

- 無公害キャンドモータポンプで世界首位
- 製品製造の参入障壁が高い（防爆規格^(※)、フルカスタマイズ等で多くの製造ノウハウ）
- 成長市場の海外に販売・成長機会がある
＜海外売上高推移＞
40億円（2004.3）→118億円（2014.3）→**205億円**（2024.3）
- **キャンドモータポンプの用途拡大期待**
（将来的な脱炭素市場の拡大等）

※防爆とは、可燃性ガスや粉塵によっておこる火災や爆発を防止することです。
化学プラント等で使用する電気機械器具は各国・地域で定められた防爆規格に対応する必要があります。

「成長への考え方」

主力ポンプ製品を一層伸ばす

- 環境貢献度の高いキャンドモータポンプを海外も含めて主力製品として伸ばしていく
（市場深耕と新市場開拓）
- そのための技術面・生産面・販売面の体制整備を行う
（資材安定調達・技術対応力向上・販売力強化）

将来的に成長が見込まれる脱炭素市場等の獲得に向けた、強みと機会を最大限活かすための基盤整備

基本テーマ： 環境貢献に軸を置いた成長戦略とサステナブル経営の両立

- 環境負荷を軽減させる主力製品『キャンドモータポンプ』の普及を加速
- 持続的成長と将来的な需要増加に備えた事業基盤の整備・強化

戦略 1

環境負荷軽減に直結する ポンプ事業の推進と基盤整備

- ① キャンドモータポンプの需要開拓・促進
(市場深耕と新市場開拓)
- ② キャンドモータポンプの安定供給を支える
調達力強化と技術対応力向上

戦略 2

人的資本尊重・強化による 成長組織基盤強化

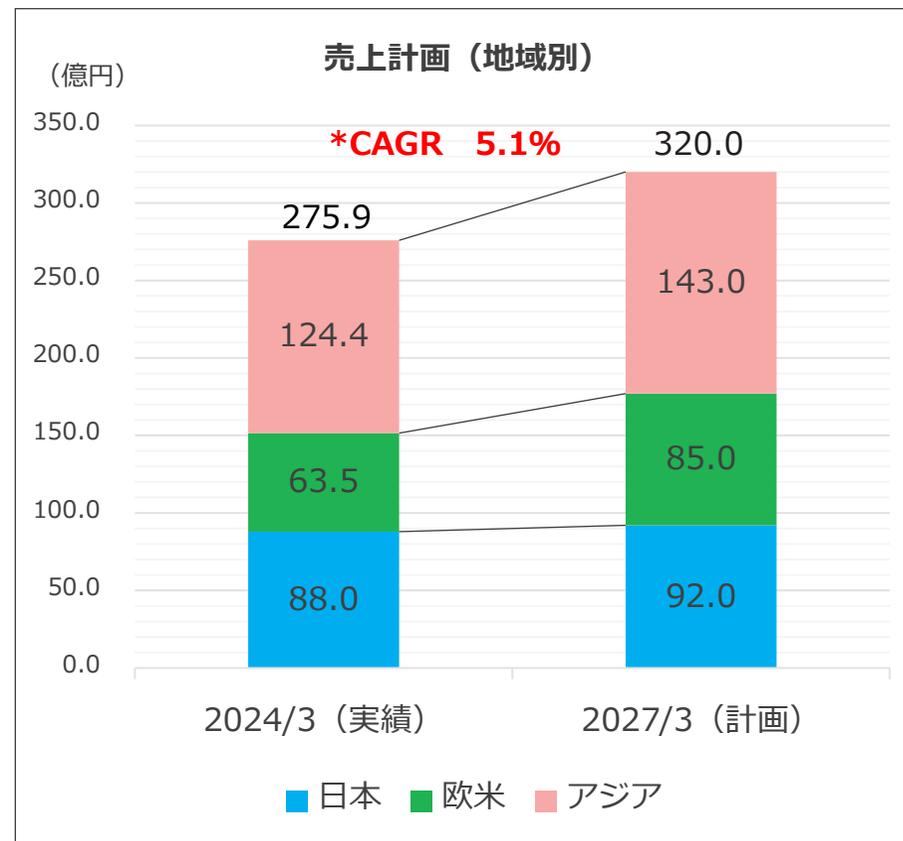
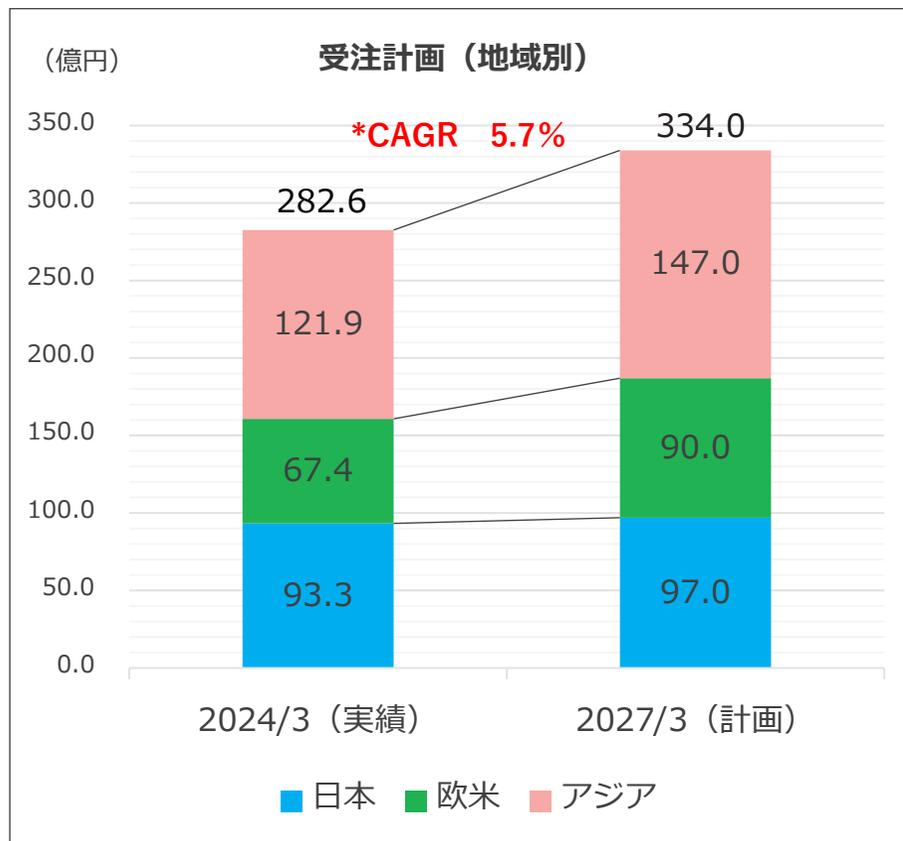
- ① 人財投資増強による育成強化とモチベーション
アップ
- ② 働きやすい職場環境の整備

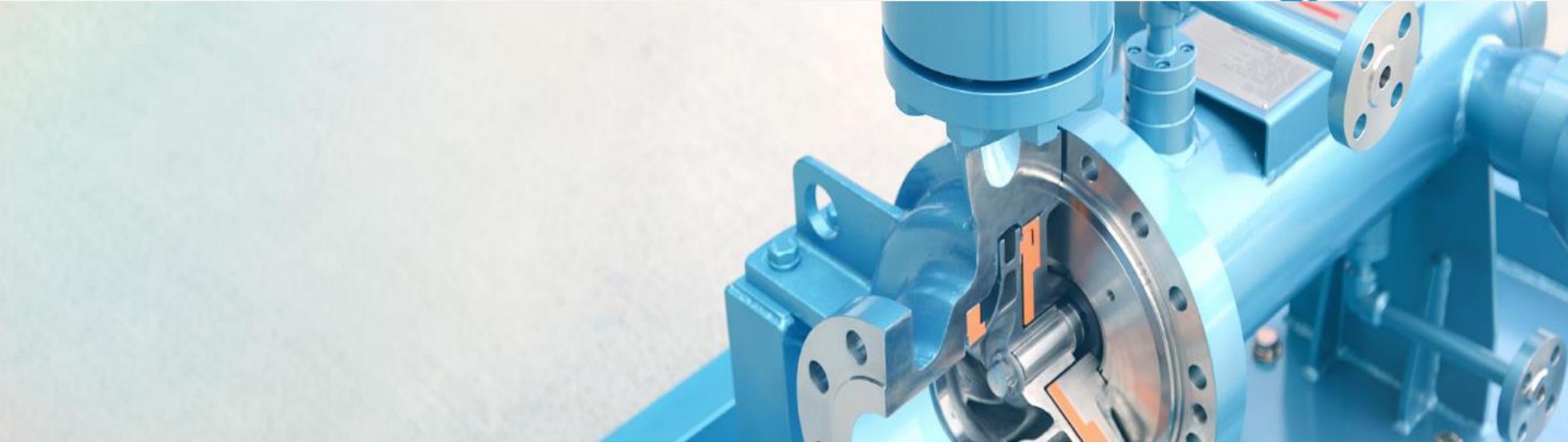
- 収益性強化に重点。CAGR（年平均成長率）： 営業利益 > 売上高

	2024/3 (下段は電子部品事業を 除いた数値)	2027/3 目標	(百万円)
財務数値			
受注高	29,895 (28,267)	33,400	CAGR 3.8% (5.7%)
売上高	29,217 (27,596)	32,000	CAGR 3.1% (5.1%)
営業利益	4,882 (4,943)	5,700	CAGR 5.3% (4.9%)
営業利益率	16.7% (17.9%)	17.9%	+ 1.2bpt (0bpt)
企業価値指標			
ROE	9.9%	14.0%	+ 4.1bpt

※2024年12月末で電子部品事業は停止となります。

- 今中計も全地域で増収を想定。





成長戦略1

ポンプ事業成長戦略①
キャンドモータポンプの
需要開拓・促進



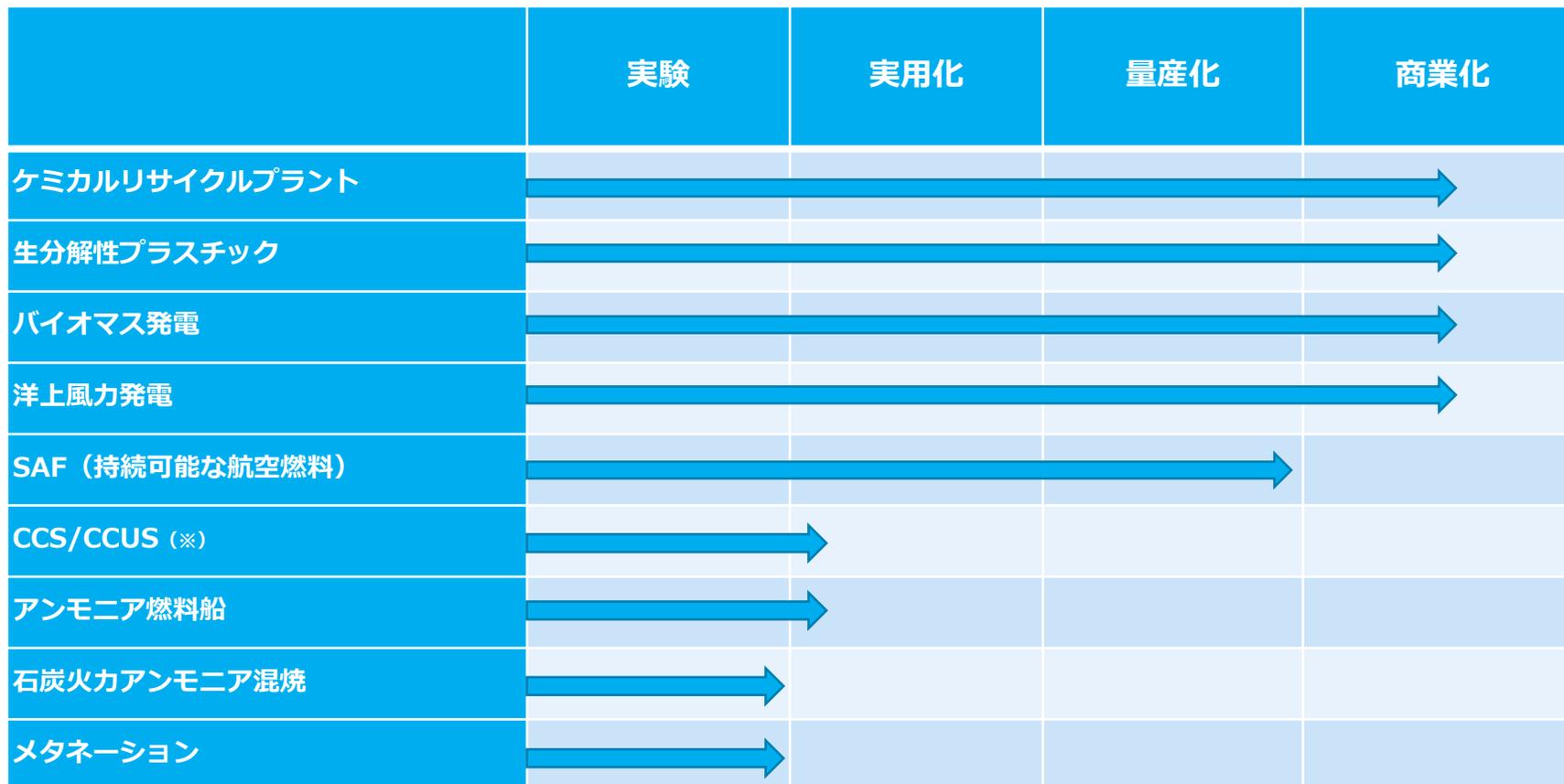
Canned
Motor Pump
Manufacturer

私たちは世界シェアNo.1を誇る

キャンドモータポンプの

リーディングカンパニーです

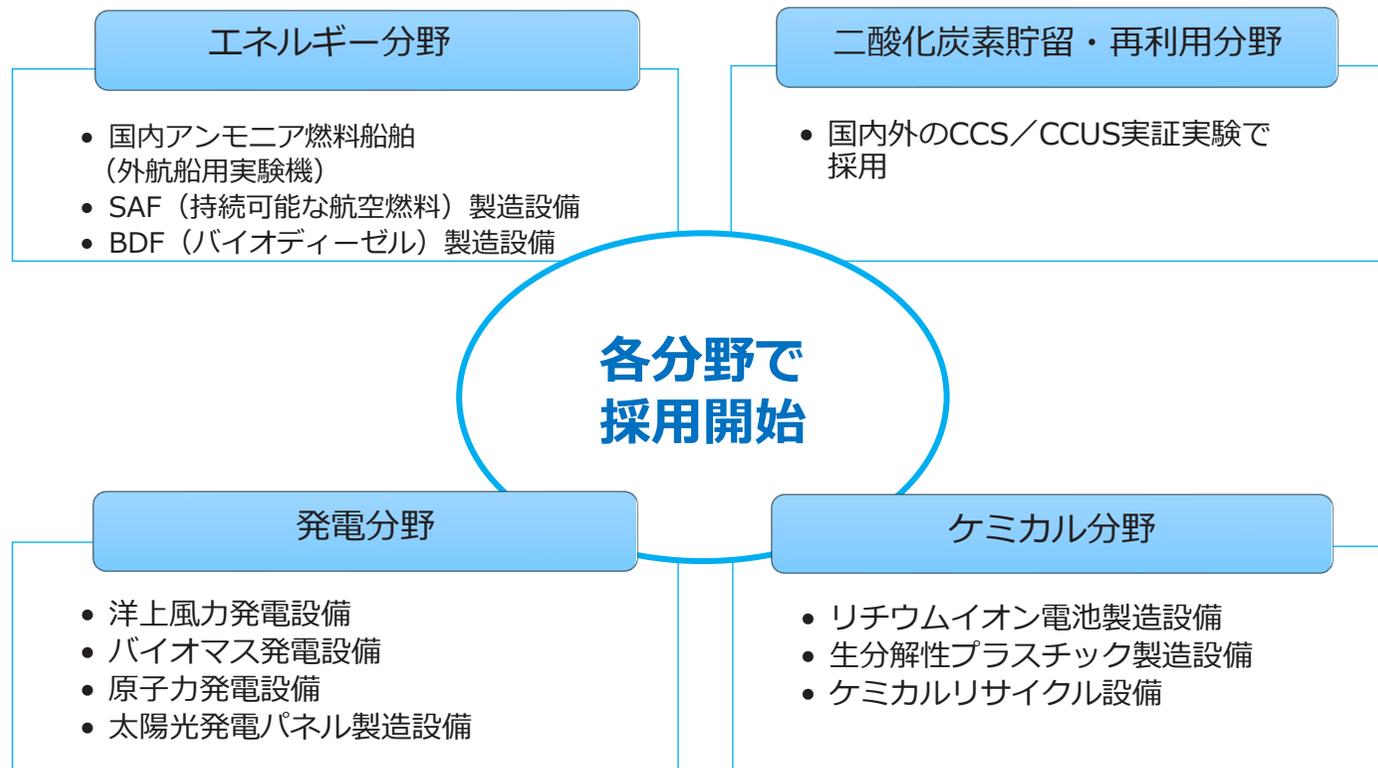
実証実験中のものも2030年までに実用化していく見通し



※CCS：「Carbon dioxide Capture and Storage」の略語で、二酸化炭素（CO₂）を分離・回収し、地中などに貯留する技術。

※CCUS：「Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage」を略したもので、回収したCO₂の貯留に加えて利用しようというもの。

下記は当社の脱炭素向け受注案件の一部（実証実験向け含む）



(百万円)

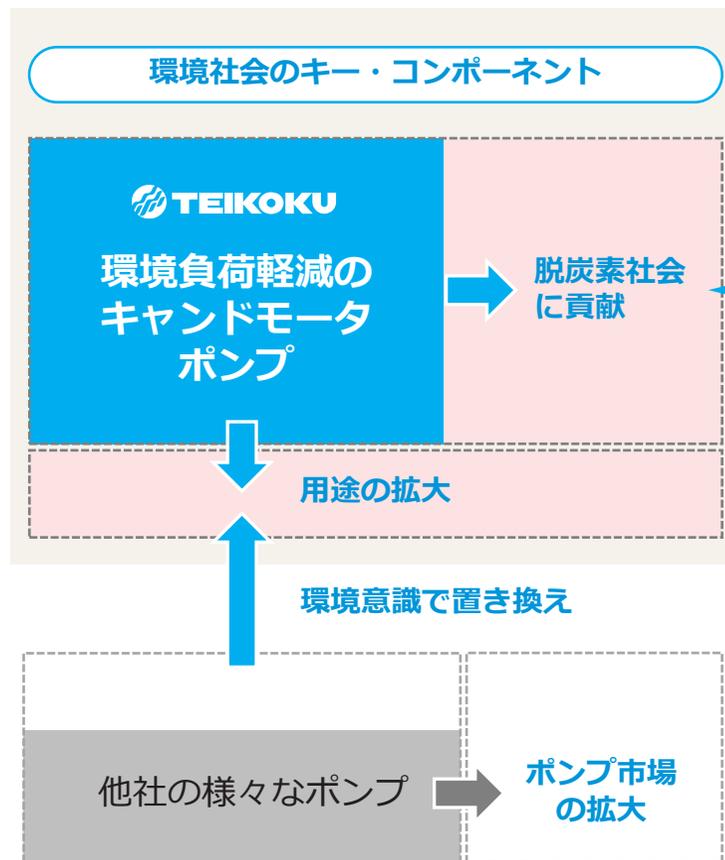
分野	2023年3月期	2024年3月期
ケミカル関連 (リチウムイオン電池、ケミカルリサイクル、生分解性プラスチック等)	1,143	1,056
発電関連 (太陽光、風力、アンモニア混焼火力、原子力等)	1,045	1,802
燃料関連 (航空機・自動車・船舶等の燃料として使用される水素・アンモニア、バイオ燃料等)	378	645
合計	2,567	3,504



今後も多方面の分野での受注に期待

(現在)

(今後)



脱炭素の仕組みの普及・浸透に伴い、「漏れない」＝「環境負荷なし」「高耐久性」の当社ポンプ需要が増加

- 発電
- 再生可能燃料
- 電池
- 船舶動力
- CCS/CCUS など

This block contains a blue callout box with white text. The top part states: '脱炭素の仕組みの普及・浸透に伴い、「漏れない」＝「環境負荷なし」「高耐久性」の当社ポンプ需要が増加' (As the spread and penetration of decarbonization mechanisms, the demand for our pumps with 'no leaks' = 'no environmental burden' and 'high durability' increases). Below this is a white box with a blue border containing a list of applications: '発電' (Power generation), '再生可能燃料' (Renewable energy), '電池' (Batteries), '船舶動力' (Ship propulsion), and 'CCS/CCUS など' (CCS/CCUS, etc.).

【市場深耕】

1. 海外現地生産拡充による顧客ニーズへの対応強化

＜中国子会社の生産効率化投資＞：次期中計実現へ生産能力4割増

生産効率化に向けた設備投資を実行中。（2025年1月稼働予定）

- ・概要

工場の増設・一部改修及び生産管理システム整備

生産能力：1,400台/月 → 2,000台/月（+42.8%）

＜インド子会社の生産能力増強＞：売上高は年平均25%以上の伸び

現地生産機種拡大のための生産能力増強投資を検討中。

[HYDRODYNE TEIKOKU社の売上高推移]

2018年3月期 295百万円 → 2024年3月期 1,146百万円（CAGR25%以上）



中国子会社 工場増設・改修工事の様子

【市場深耕】

2. 海外における現地規格対応強化

＜米国規格ASME B73.3準拠製品の現地ノックダウン生産＞

・ ASME B73.3規格への対応

米国機械学会が策定したケミカルプロセス向け遠心ポンプ規格B73.3に準拠したシールレスポンプ。

・ 米国のケミカルポンプ市場の状況

「**米国のケミカルポンプ市場でキャンドモータポンプのシェアは5%程度**」と言われており、未だメカニカルシールポンプが主流となっている。

ASME規格に準拠した製品ラインナップと現地でのノックダウン生産により、価格・納期に競争力を持たせることで置き換え需要を見込む。



3年間累計売上高12億円目標

【新市場開拓】

マーケティング強化

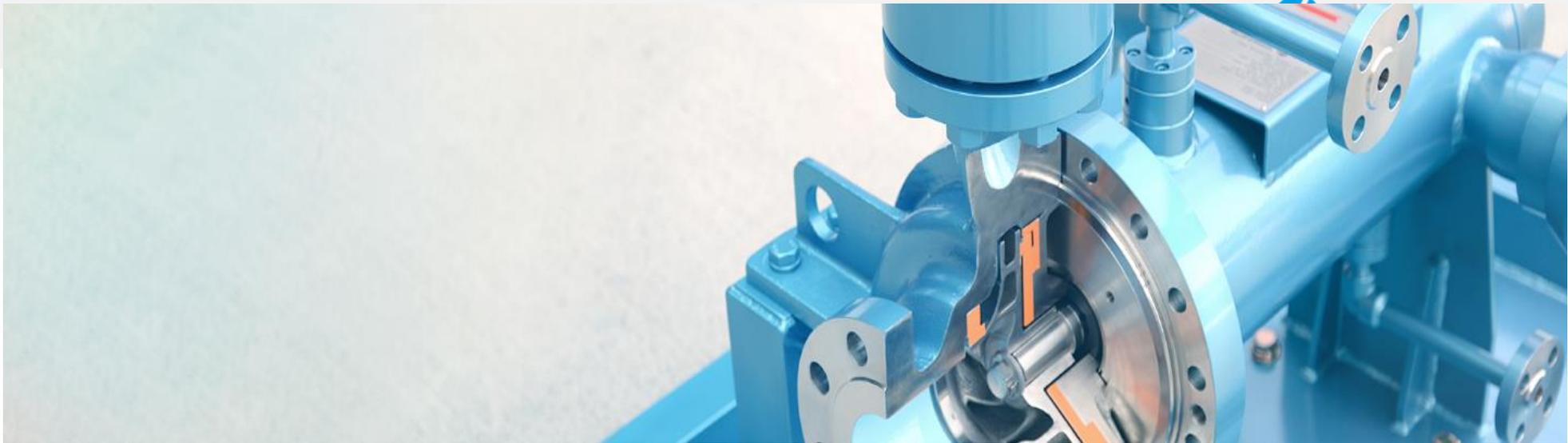
- ・ 脱炭素市場に関する特定業界調査の専任担当者を配置
- ・ 各種業界団体等への加入による情報収集強化
- ・ 展示会への積極出展や広報活動の強化

新市場向け製品の開発

- ・ 脱炭素市場向けに顧客ニーズに合った製品開発を行う



INCHEM TOKYO 2023に出展



成長戦略1

ポンプ事業成長戦略②
キャンドモータポンプの
安定供給基盤の確立



Canned
Motor Pump
Manufacturer

私たちは世界シェアNo.1を誇る

キャンドモータポンプの

リーディングカンパニーです

当社キャンدمอเตอร์ポンプ製造の特徴と課題

- **顧客要求仕様に合わせた完全受注生産**（当社製品の高評価ポイント）

→海外案件を中心に高難度案件が増加している。

→受注状況や納期により繁閑が出やすい。

- **高難度案件は工程が複雑で多品種少量生産**

→多品種少量生産に対応可能なサプライヤーが少ない。



製造サプライチェーンの 安定化・効率化が課題

川上



川下

鋳物素材の安定供給の確保
設備稼働のばらつき・製造ライン不足の発生抑制
適切な在庫管理
設計効率の向上
需要増に見合う安定した製品供給

- 需要と社会的役割が増加する当社キャンドモーターポンプへの供給責任を果たすため、今中期経営計画では、以下の課題を解消する方向へ

供給体制の整備・拡充で、来るべき需要増に備える

① 設計効率の向上

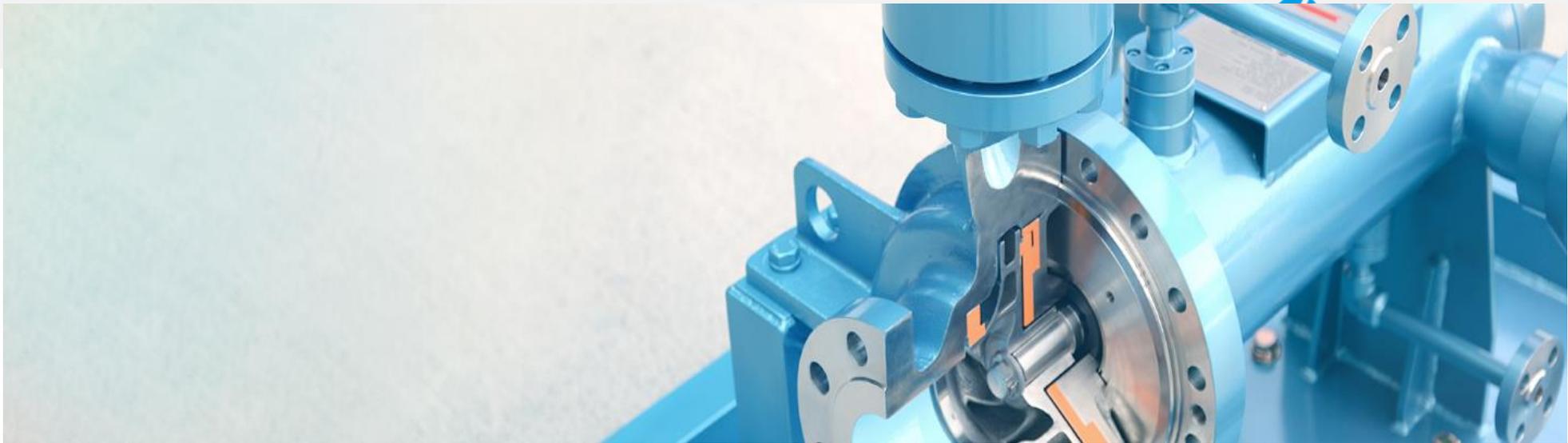
多様な受注形態に対応可能な
設計効率向上と技術対応力高度化を図る

- 設計効率化
 - ITデジタル化による設計効率化・自動化
- 高難度化への対応
 - 脱炭素や海外案件など高難度案件への人員シフト
 - 若年層社員専門教育を徹底

② サプライチェーンの強化

当社の良さである個別受注生産・小ロット発注での
量産化を推進するために不可欠な生産体制を強化

- 鋳物素材の安定調達
 - 負荷の平準化
 - 鋳物業者との情報連携
- 国内子会社の生産効率向上
 - 設備投資（15億円程度）による生産効率向上



成長戦略2

人的資本等の強化・尊重による
成長組織基盤の強化



Canned
Motor Pump
Manufacturer

私たちは世界シェアNo.1を誇る

キャンドモータポンプの

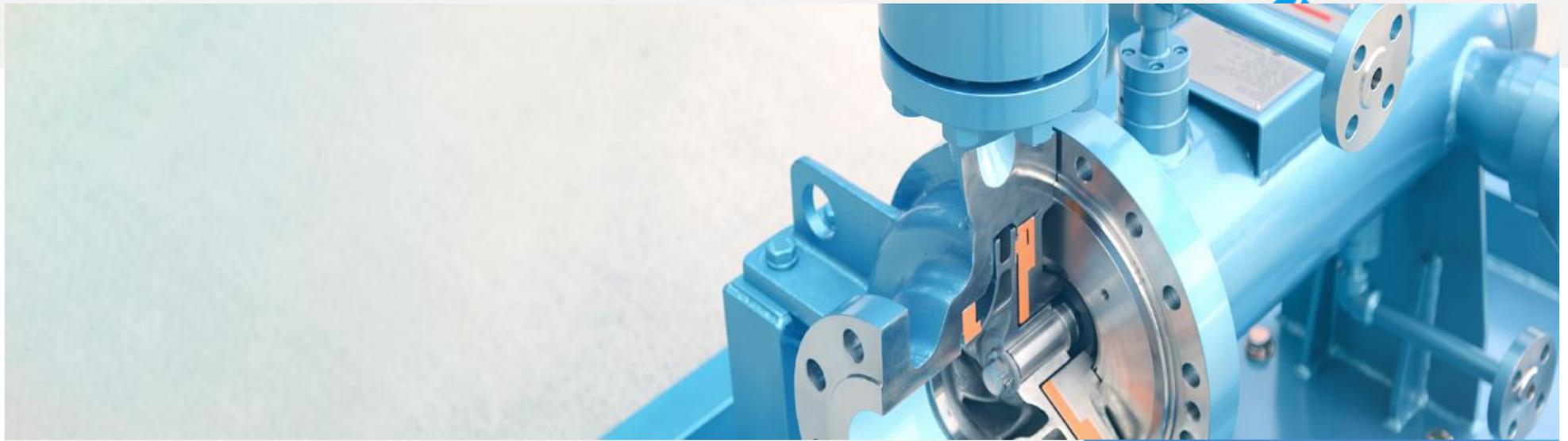
リーディングカンパニーです

基本方針1：人財投資増強による育成強化とモチベーションアップ

- ① 教育訓練の更なる充実による成長実感とモチベーションアップ
- ② 女性活躍推進による組織風土改革
- ③ 事業拡大・組織強化に呼応した積極的な人材確保（全国規模及び国内外人材確保の積極化）
- ④ 人事・評価制度の見直し検討

基本方針2：働きやすい職場環境整備

- ① 先進IT技術導入で、職場環境の効率化・快適化を進める
- ② 国内子会社の労働環境改善



補足：電子部品事業の 事業停止について



Canned Motor Pump Manufacturer

私たちは世界シェアNo.1を誇る

キャンドモータポンプの

リーディングカンパニーです

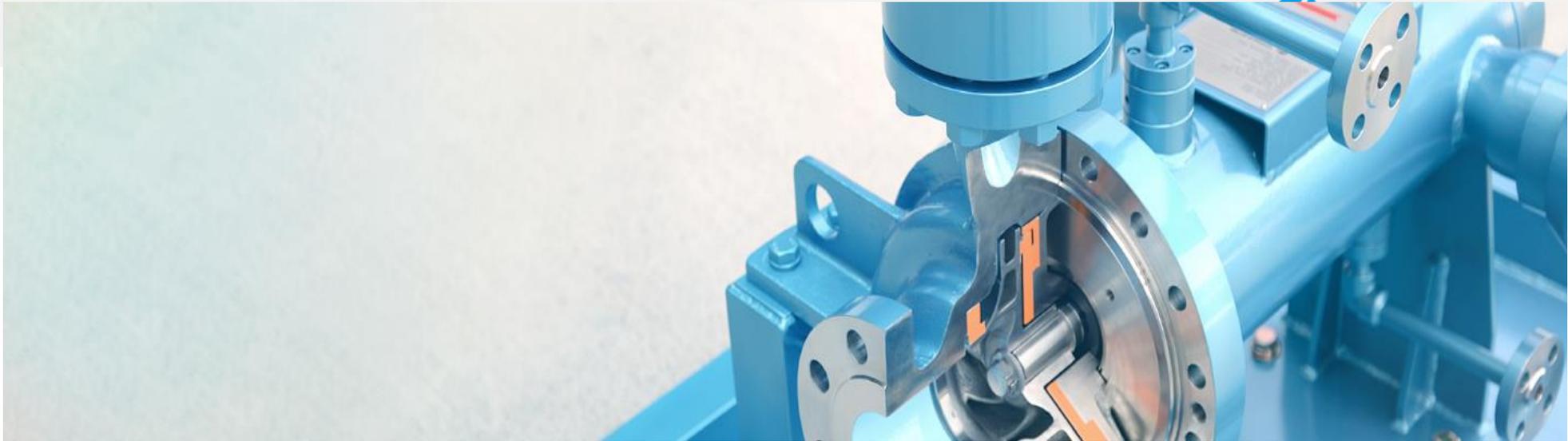
- 1963年に自動車電装部品部門を分離独立。
- 現在までの事業発展に一定の成果あったが、**2021年3月期に営業赤字を計上するなど近年は収益性が低下、主力事業のポンプ事業とのシナジー効果は少ない。**
- 資本効率性の高い経営を追求するため、経営資源の最適配分・ベストオーナー的観点から当事業の位置づけを再検討した結果、事業を営む連結子会社**平福電機製作所（兵庫県揖保郡）の清算方針を決定（2024年12月末に事業停止）**



2024年3月期：関係会社整理損570百万円を特別損失として計上
2025年3月期：割増退職金当等の費用が発生する見込み



**今後は、コアビジネスである主力のキャンドモーターポンプ製造・販売に
経営資源を集中配分する**



資本政策・株主還元に関する考え方



Canned
Motor Pump
Manufacturer

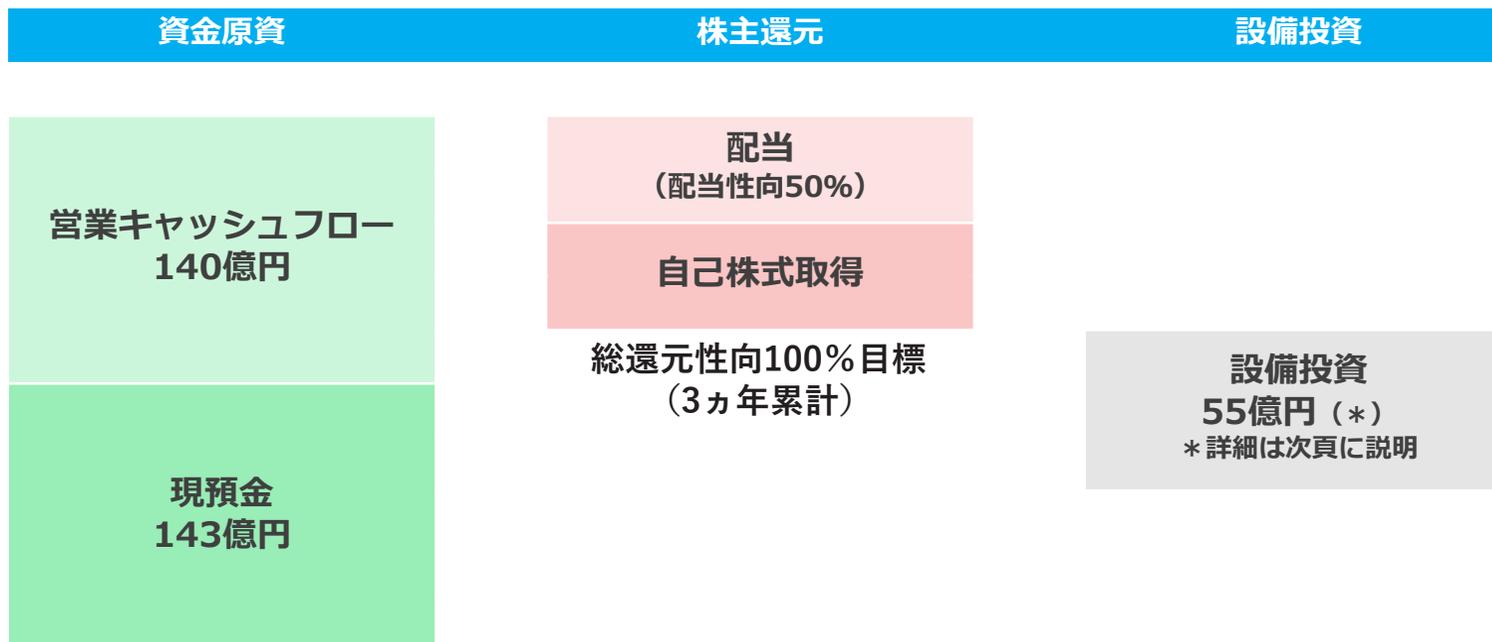
私たちは世界シェアNo.1を誇る

キャンドモータポンプの

リーディングカンパニーです

資金配分

自己資金である現預金と営業キャッシュフローを資金原資として、2025年3月期から2027年3月期の**3カ年累計で約55億円規模の設備投資を行う予定です。**
 また、株主還元につきましても、配当性向50%を目安とした配当を行い、併せて、**3カ年累計の総還元性向100%を目標に自己株式取得を実施する方針です。**
事業再構築費用として一定の手元預金は必要です。（今年度は電子部品事業停止に伴う諸費用等を想定）



- 日本・中国・インド中心に積極投資

地域	金額（3年間累計） 単位：億円	内容
日本	30	<ul style="list-style-type: none"> 国内子会社の生産効率化（15億円）と労働環境改善など
アジア	20	<ul style="list-style-type: none"> 中国子会社の生産効率化（13億円） インド子会社の生産能力増強など
欧米	5	<ul style="list-style-type: none"> 米国子会社のサービス拠点拡張 米国子会社のノックダウン生産機種拡大
合計	55	



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

4.ご参考資料



株式会社 帝国電機製作所

顧客・業界のニーズに応じて多様な用途を開発

	<p>基本型</p>	<p>多くの用途で使用されている標準的なタイプ</p>		<p>超耐熱型</p>	<p>高温液向けにモータの耐熱温度を大幅に高めたタイプ</p>
	<p>リバーササーキュレーション型（縦型）</p>	<p>液化ガス等の気化しやすい液体向け（液体アンモニア等で使用）</p>		<p>インタンク（ポット）型</p>	<p>ポンプ部全体が取扱液に浸かるため冷却状態を保持しやすく、低温液化ガス（LNG、液体アンモニア等）で使用</p>
	<p>小型高速型</p>	<p>高速回転を実現化しコンパクト化。半導体洗浄装置や燃料電池、サーバー冷却等で使用</p>		<p>API685用</p>	<p>API685規格に適合したタイプ（高温高圧のハイドロカーボン等で使用）</p>

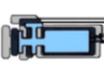
ポンプ機能を少ない環境負荷で実現

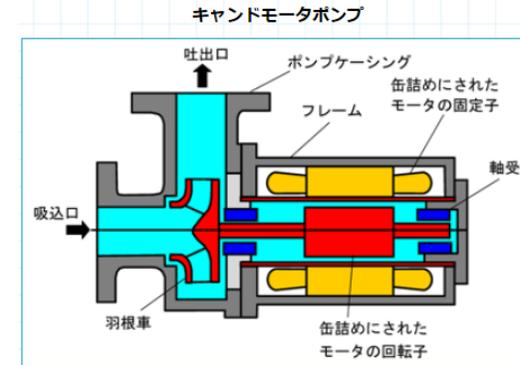
- ・ポンプ機能：液体や気体の動きを運動エネルギーに変える非常に効率的な仕組み
- ・キャンドモータポンプ：
ポンプとモータが一体化した完全密閉型構造で
構造的に液漏れしない・長期間メンテナンス不要 → 少ない環境負荷

*環境対策に優れた数々の特徴を内包

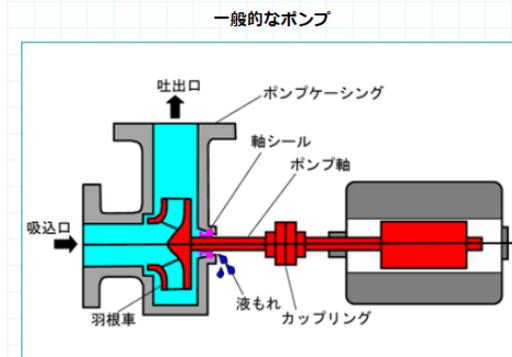
* 密閉型構造で液漏れせず
機能・取扱で安心・安全を100%担保

キャンドモータポンプの優れた特徴

<p>1 完全無漏洩</p>  <p>取り扱った液体が外部に漏れるおそれがないので、人体に有害な液、爆発や引火しやすい液、高価な液、腐食性のある液などの取り扱いに適しています。</p>	<p>2 外気との接触なし</p>  <p>外気を吸い込まないので、真空系での運転、外気に触れると変質する液などの取り扱いに適しています。</p>	<p>3 幅広い圧力・温度に対応</p>  <p>軸シールがないので、系の圧力が高い、高温液、低温液、高融点液などを取り扱うポンプの製作が容易です。</p>
<p>4 潤滑油いらす</p>  <p>潤滑油を必要としないので、取り扱った液体の汚染がなく、給油の手間が不要です。</p>	<p>5 小型軽量で省スペース</p>  <p>モータ軸がポンプ軸を兼ねているので、小型軽量で設置場所をとらない、分解点検が容易です。</p>	<p>6 静かな運転音</p>  <p>モータを冷却するファンがないので運転音が静かです。</p>



ポンプとモータを一体化し、密閉された構造であるため漏洩しません。



軸シール部から漏洩してしまいます。

CO2削減プロセスには、「取扱いが難しい物質を厳しい条件下」で扱うことが多い。

→ 厳しい使用条件（危険・高温・低温・高圧・真空など）

→ 液漏れしない、耐久性の高いキャンドモータポンプは「キーパーツ」

用途	難しいコントロールが必要なガス・液体・化学物質の機能
発電	・ 石炭火力発電所（ 有毒で刺激臭の強いアンモニア の混焼・専焼）
蓄電	・ 燃料電池（ 脱イオンの純水 が必要）、リチウム電池（ 有毒な電解液 を利用）
ケミカルリサイクル 生分解性プラスチック	・ 多種多様な環境（ 有毒な液体、高圧の環境、真空の工程 など）が求められる。
水素ステーション	・ 水素輸送・貯蔵には、 有毒・危険な物質にして輸送・貯蔵 する必要あり。 ・ 水素の充填には 冷却用冷媒液 が必要。
燃料供給・貯槽	・ CCSには 有毒なアミン溶液 を利用し、 低温・高圧環境・無漏洩の環境で貯蔵 する。
再生可能燃料	・ 船舶（ アンモニア ）、航空機（ バイオ燃料 ）、自動車（ 水素 ）など
再生可能エネルギー	・ 太陽光発電（ 毒性の強い原料ポリシリコン ）・地熱発電（ 純水と有毒なアンモニア ） ・ 洋上風力発電（ 冷媒液の管理・メンテナンス ）

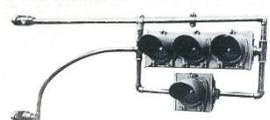
完全密閉空間（液漏れしない）の特性

→ 環境対策に必要な化学物質の混合が求められる装置・設備に最適

環境テーマ	導入事例
オゾン層保護	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温暖化係数が低く、安全なCO2を冷媒として使用する冷凍設備 ・ 脱フロン対策としての代替フロン製造設備 ・ 家電や自動車から回収されたフロン類(CFC・HCFC等)の分解処理設備 ・ 火力発電所の排ガスに含まれるCO2を回収するプラント
再生可能エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下水処理場の下水汚泥ガス化発電システム ・ 太陽光発電のパネルに使用される多結晶シリコン製造設備 ・ 地熱等の熱エネルギーを利用したバイナリー発電装置
バイオ燃料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市販ガソリンにバイオエタノールを混合するプラント ・ LPGやディーゼルの代替となり得るバイオジメチルエーテルの送液設備 ・ パームヤシ殻を主燃料にした、木質バイオマス専焼の発電設備
水質汚濁対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工業排水処理用施設で使用される汚水処理装置 ・ 下水汚泥燃料化設備（海に流出した汚泥をすくい取り、汚泥の炭素成分を取り出し 燃料化する） ・ 上下水道の浄化システム用オゾン発生装置
大気汚染対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 石炭からコークスを製造する過程で排出されるガスの脱硫装置 ・ 原油からガソリンを製造する過程で硫黄分を低減するための脱硫装置
土壌汚染対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境保全型農業製品の製造設備
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ リチウムイオン電池のセパレータ及びセパレータの原料を製造する設備 ・ リチウムイオン電池の電極の製造設備

当社は完全無漏洩構造のキャンドモータポンプを主力事業として、約半世紀にわたって事業を展開しています。

世界各地の石油化学プラント、ファインケミカル、医薬・食品業界、原子力発電所、変電所等様々な分野で活躍し、数多くの実績と信頼を築いています。



1939年
帝国電機製作所
設立

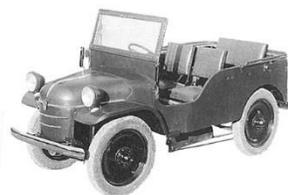
1958年
A型モータ
を試作

1991年
初の海外拠点
となる
TEIKOKU USA
INC. を設立

2003年
TEIKOKU USA
INC.が米国クレ
イン社のケミポ
ンプ事業部を買
収

2017年
本社工場
リニューアル

1947年
テイコク製電気
自動車を開発



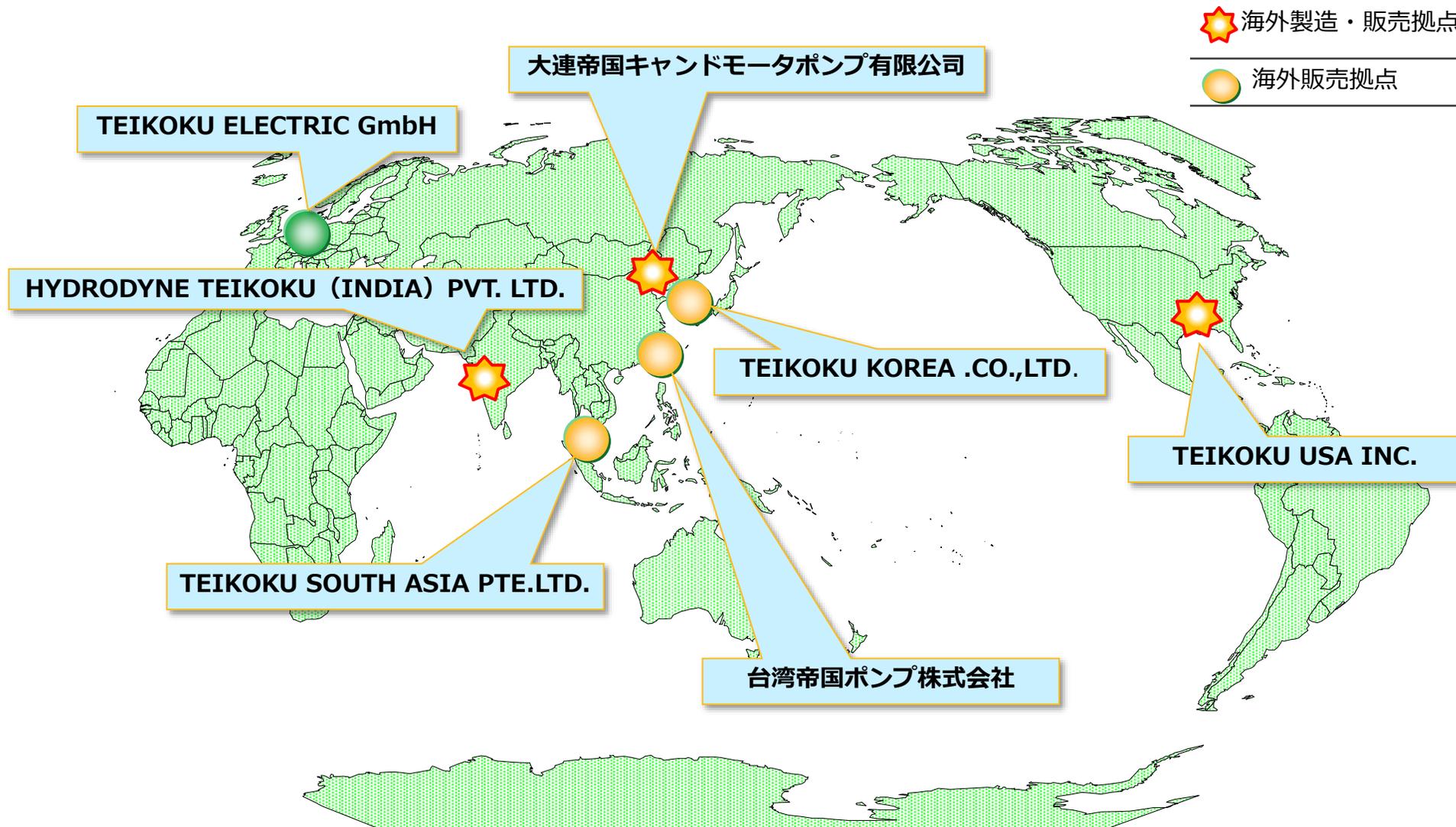
1960年
キャンドモータ
ポンプの開発に
成功



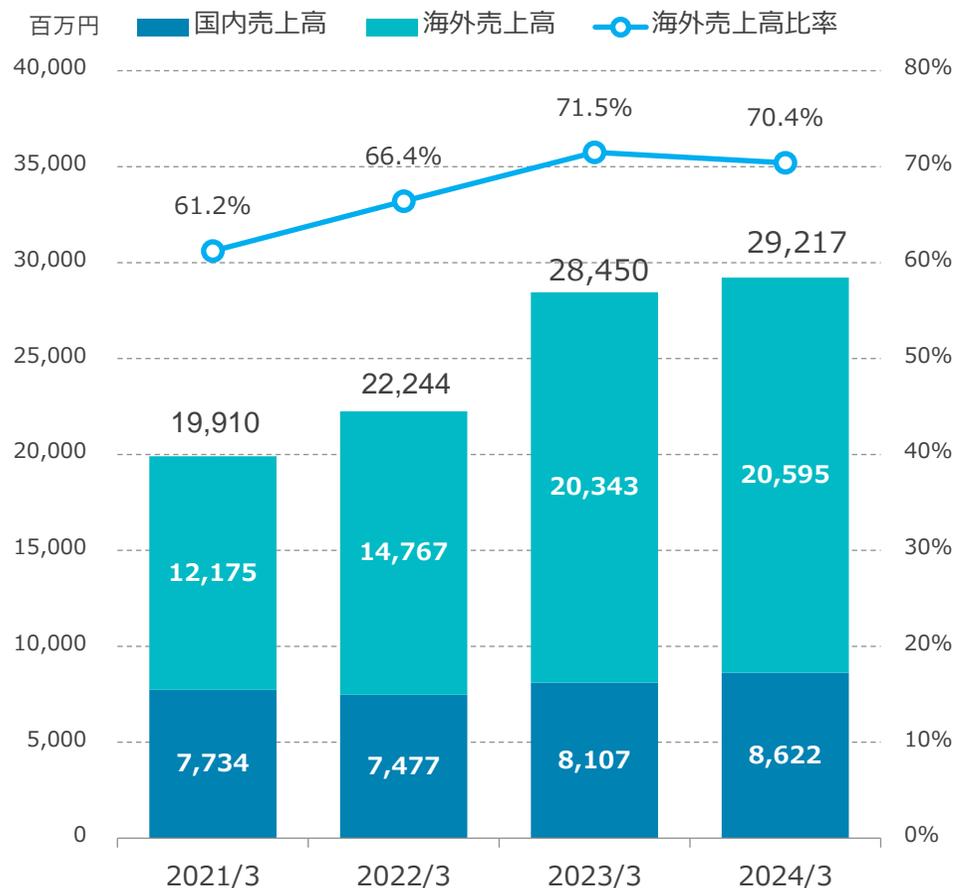
1994年
中国に大連帝国
キャンドモータ
ポンプ有限公司
を設立

2006年
東京証券
取引所市
場第一部
に上場

2017年
インドのHYDRODYNE
(INDIA)PVT. LTD. を子会社化
(現・HYDRODYNE
TEIKOKU(INDIA)PVT.LTD.)

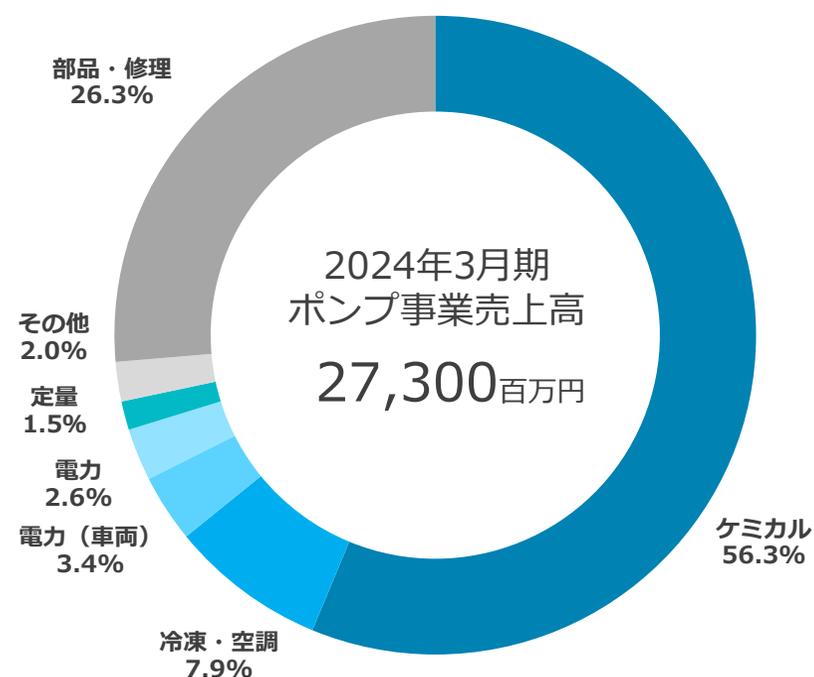


国内外売上高比率の推移

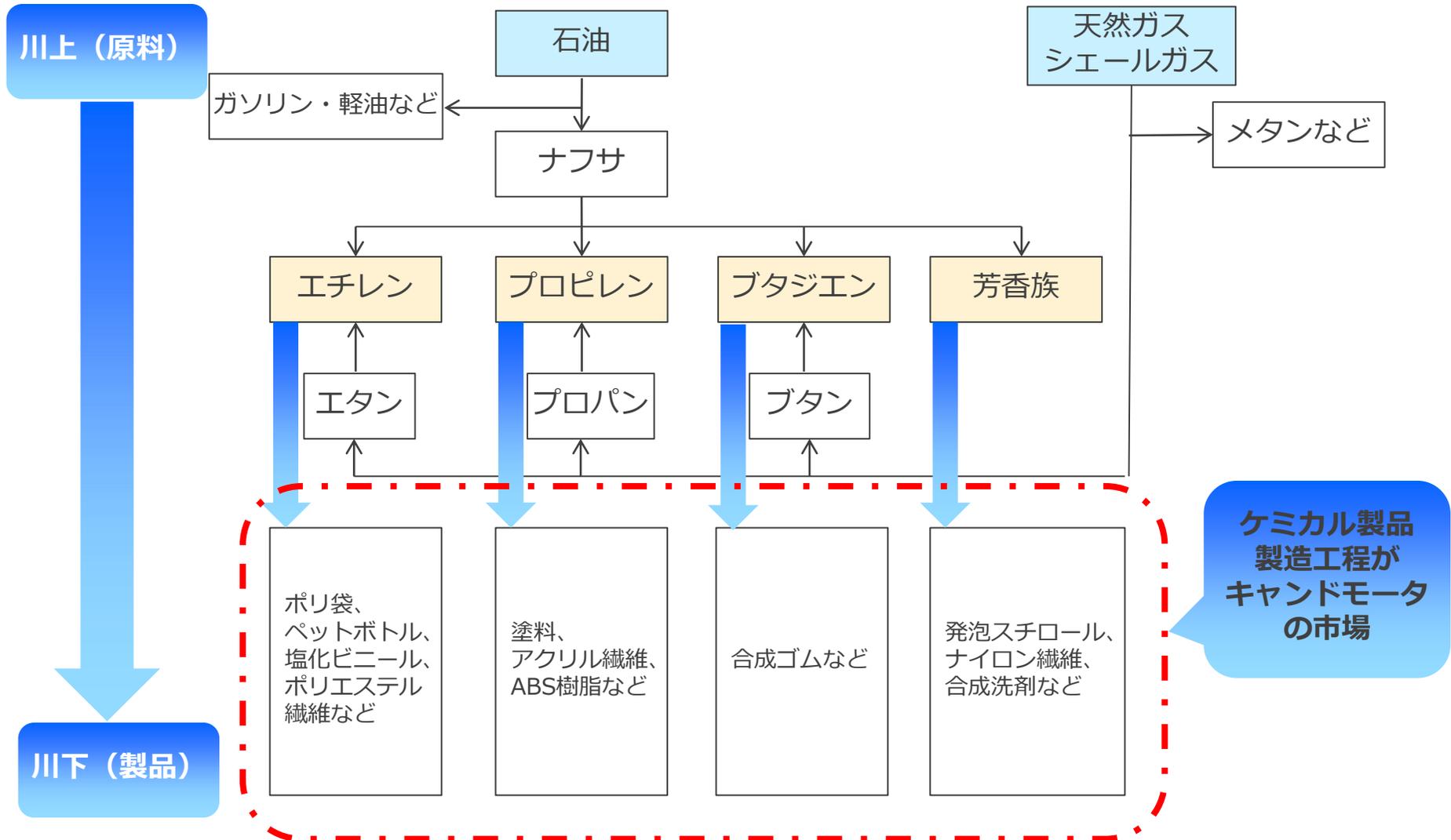


● 電子部品事業は2024年12月に停止予定

ポンプ用途別売上比率



● 売上高の約93.4%は、「キャンドモータポンプ」を主軸とする「ポンプ事業」



完全無漏洩という特徴を活かし、石油化学プラント等様々な分野で活躍しています。



電動油ポンプ

変圧器冷却用に使用されています。変電施設の他、すべてのJR新幹線に搭載されています。



キャンドモータポンプ

国際規格API685に準拠したキャンドモータポンプ。高温・高圧に対する耐久性にも優れています。



定量ポンプ

一定量の液体を正確に移送可能なポンプ。用途範囲が広く、薬品業界等で活躍しています。



大型冷凍機・空調機の冷媒の移送においても、当社のキャンドモータポンプが採用されています。



かくはん機

各種槽内の液体を効率よく攪拌でき、石油化学業界のほか、食品業界等でも活躍しています。





モータジェネレータ基板

電子部品事業

- 100%子会社平福電機製作所の事業
- 電子部品のプリント基板表面への実装作業中心
(自動車用・二輪車用85%、産業機械用15%)

主力の車載向けに一層注力 (自動車のシステム化・EV化対応)

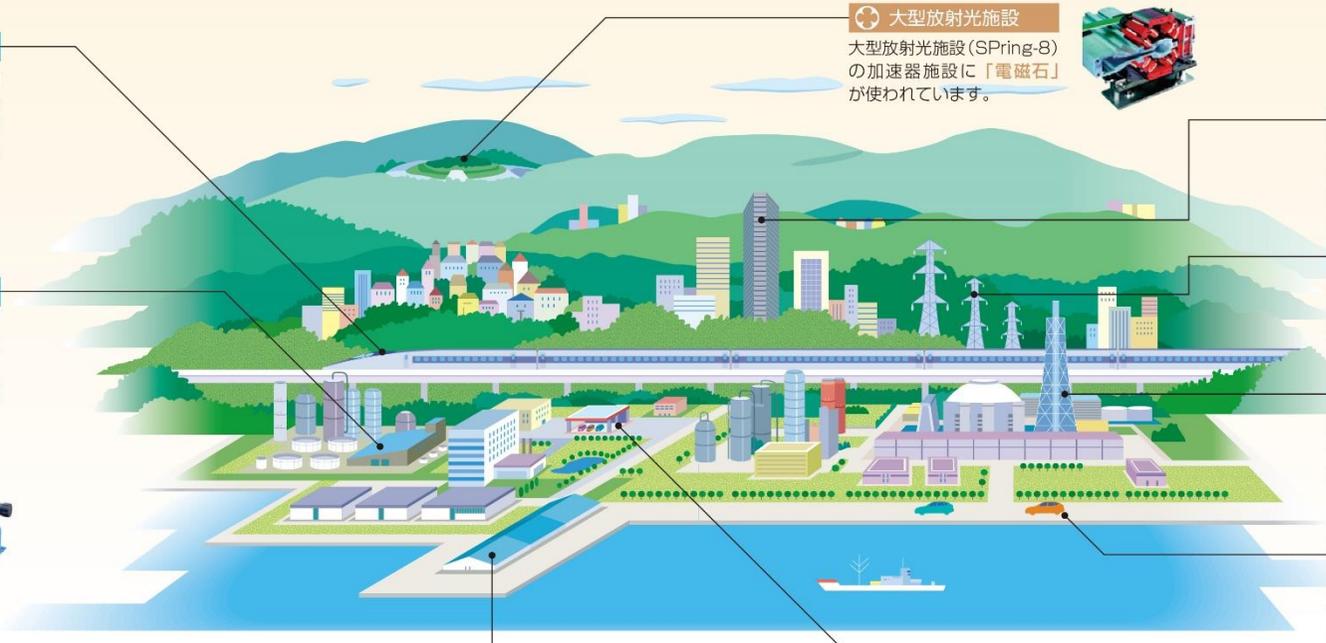
- 統合ECU (ワイパーや照明等の機能制御機器)
- EPS (電動パワーステアリングシステム)
- SSU (スマートキーレスエントリー)
- モータジェネレータ (車両用発電電動機)
- EV向けモータの回転センサー

産業機械向けの拡充 (省力化投資拡大による需要増)

- シーケンサ (PLC) 用電源基板・表示器

特集 くらしの中のテイコク

当社の製品は、設備や装置の動力部分に使われているため、一般に目に触れる機会はあまりないと思います。しかし、何気なく利用しているビルや交通機関、また、工場、発電所などにも、当社製品は幅広く活躍しており、快適で便利な暮らしや社会をしっかりと支えています。



★ 新幹線
変圧器冷却用の油を循環させるために「電動油ポンプ」が使われています。

★ 工場
石油化学、ファインケミカル、医薬・食品など多様な分野の工場で「キャンドモータポンプ」、「定量ポンプ」、「かくはん機」が使われています。



⊕ 倉庫
工場や倉庫の天井クレーンなどに「ブレーキモータ」が使われています。



⊕ 大型放射光施設
大型放射光施設 (SPring-8) の加速器施設に「電磁石」が使われています。



★ ビル・大型施設
吸収式冷暖房機の冷媒液、吸収液の循環に「吸収式冷暖房機用キャンドモータポンプ」が使われています。



★ 変電所
変圧器冷却用の油を循環させるために「電動油ポンプ」が使われています。



★ 発電所
原子力発電所や火力発電所にも当社の「キャンドモータポンプ」が使われています。



◇ 自動車
「ETCコントロールユニット」や「キーレスコントロールユニット」など、快適なカーライフを支える便利な機能にもテイコクの技術が活かされています。



★ オートガススタンド
タクシーなどの燃料として使われるLPGのスタンドにも当社のポンプが活躍しています。



★ ポンプ事業 ◇ 電子部品事業 ⊕ その他

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
売上高 (百万円)	23,576	19,910	22,244	28,450	29,217
営業利益 (百万円)	3,750	2,262	2,494	5,023	4,882
営業利益率 (%)	15.9	11.4	11.2	17.7	16.7
ROE (%)	12.2	8.4	6.8	13.1	9.9
ROA (%)	11.1	7.1	7.9	13.6	13.0
配当性向 (%)	22.5	30.5	48.4	54.0	52.9
受注高 (百万円)	22,234	19,418	25,294	30,261	29,895
受注残高 (百万円)	8,501	8,010	11,061	12,871	13,549

本資料は当社をご理解いただくために作成されたものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれたいようをお願いいたします。

株式会社 **帝国電機製作所**